

長野県松本市

松本城下町跡

KOIKEMACHI

小池町

——第1次発掘調査報告書——



2007.3

松本市教育委員会

長野県松本市

松本城下町跡

KOIKEMACHI

小池町

—第1次発掘調査報告書—

2007.3

松本市教育委員会

序

松本城下町跡は、松本市の中心市街地に位置する江戸時代の遺跡です。この遺跡は、本町や小池町など13の町から構成され、遺跡総面積は約14万㎡にも及びます。これまで数多くの発掘調査が行われてきましたが、小池町での発掘調査は、今回が初めての調査となります。

このたび、当地にダイア建設株式会社による高層集合住宅の建設が計画されたため、松本市がダイア建設株式会社から委託を受け、埋蔵文化財を記録する目的で緊急発掘調査を実施することになりました。

発掘調査は、平成18年2月13日～同年4月14日にかけて行われました。折からの寒風の中での調査となりましたが、関係の皆様のご尽力によりまして、無事に調査を終了することが出来ました。発掘調査の結果、江戸時代初期から幕末にいたる町屋の様々な生活痕を発見することができました。これらは、今後地域の歴史を解明する上で、大変重要な資料になることと思われまます。

しかしながら、開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることは事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうのは残念なことです。発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えられます。

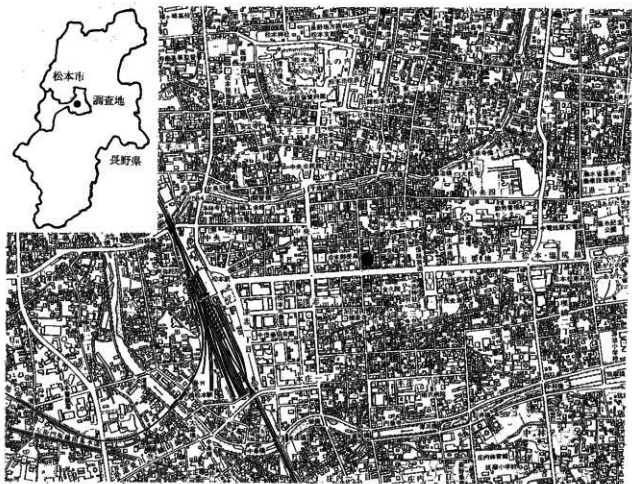
最後になりましたが、発掘調査に多大なご理解とご協力をいただいたダイア建設株式会社、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

松本市教育委員会 教育長 伊藤 光

例言

- 1 本書は、平成18年2月13日～同年4月14日に実施された松本市中央3丁目640番、641番、642番、643番、639番1、639番2に所在する松本城下町跡小池町第1次の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、ダイア建設株式会社による集合住宅建設に伴う緊急発掘調査であり、同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査を実施し、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆は、竹内靖長が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄・注記・接合：久根下三枝子（木器）、竹平悦子、中澤温子（土器・陶磁器）
土器陶磁器実測・トレース：白鳥文彦、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、八坂千佳
土器・陶磁器図版作成：八坂千佳 木製品整理・図版作成：久根下三枝子
金属製品整理：内畑 団、洞沢文江 遺構図調整・トレース：村山牧枝
遺物写真：宮嶋洋一 総括・編集：竹内靖長
- 5 本書中で用いた遺構図の細部表現は次の通りである。
●…彌羽口出土地点 ▲…鉄滓出土地点 ■…埴堀出土地点
- 6 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は、松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に収蔵されている。



第1図 調査地の位置

目次

例言

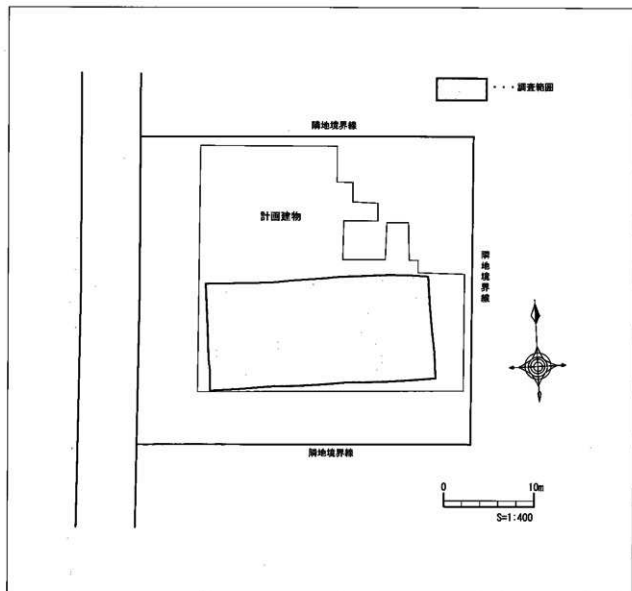
目次

- I 調査の経緯…………… 1
 - 1 調査に至る経過
 - 2 調査体制
- II 調査の概要…………… 2
 - 1 遺跡の概要
 - 2 調査地の基本土層
 - 3 調査の方法
 - 4 調査の成果

III 調査結果

- 1 遺構…………… 6
 - (1) 第I検出面
 - (2) 第II検出面
 - (3) 第III検出面
- 2 遺物
 - (1) 土器・陶磁器・土製品…15
 - (2) 木製品……………30

写真図版



第2図 調査範囲図



復元図は享保13年（1728）秋改松本城下絵図を都市計画図に重ねたもの

■…調査地

第3図 城下町復原図にみる調査位置

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

松本城下町跡は、松本城を中心に現在の松本市街地一帯に広がる近世の遺跡である。近年の市街地再開発事業などに伴って、50箇所以上におよぶ発掘調査が行われ、多くの遺構・遺物が確認されてきた。

このような中、松本市中央3丁目639番1、639番2、640～643番において、ダイア建設株式会社による高層集合住宅建設事業が計画された（文化財保護法第93条に基づく届出書：平成18年1月18日提出）。事業予定地は、松本城下町跡小池町地点の町屋跡にあたり、開発事業が実施された場合には埋蔵文化財が破壊されるおそれが生じた。このため松本市教育委員会は、平成18年1月20日～1月26日にかけて試掘確認調査を実施した。この結果、開発事業によって埋蔵文化財が破壊されることが明らかとなったため、協議のうえ発掘調査を実施して記録保存を行うこととし、平成18年2月13日付でダイア建設株式会社と松本市長 菅谷昭との間で当該遺跡に関する発掘調査委託契約を締結して、松本市教育委員会が発掘調査を実施した。発掘調査は、平成17～18年度にまたがって実施されたので、平成18年度の発掘調査および報告書作成の委託契約を平成18年4月1日付で締結した。発掘調査は平成18年2月13日～同年4月14日にかけて実施した。調査終了後、平成18年4月18日付で長野県教育委員会に終了報告書を提出し、また同日に松本警察署に埋蔵物発見届を行い、平成18年4月25日付で長野県教育委員会教育長から埋蔵物の文化財認定を受けた。

出土遺物及び現場測量図・写真等の整理作業と本報告書の作成作業は現場作業に引き続き松本市立考古博物館において行い、本報告書を刊行するに至った。

2 調査体制

調査団長：竹瀬公章（松本市教育長 ～H18.3）、伊藤 光（同 H18.4～）

調査担当：竹内靖長（文化財課主任～H18.3 主査H18.4～）、朝倉一樹（同 主任）、岡崎武祥（同 嘱託）

調査員：今村 克、宮嶋洋一、森 義直

協力者：荒井留美子、飯田三男、井口方宏、久根下三枝子、清水陽子、白鳥文彦、澤柳 博、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江、待井敏夫、道浦久美子、宮澤文雄、宮田勝年、村山牧枝、本木修次、山崎照友、渡辺順子

事務局：松本市教育委員会 教育部 文化財課

宮島吉秀（課長）、市川恵一（部課長～H18.3）、上嶋乙正（部課長H18.4～）、

熊谷康治（課長補佐～H18.3）、横山泰基（埋蔵文化財担当係長H18.4～）、

直井雅尚（主査）、関沢 聡（主査H18.4～）、渡邊陽子（嘱託～H18.3）、花村かほり（嘱託）

II 調査の概要

1 遺跡の概要

今回調査を実施した小池町は、親町3町・枝町10町と言われた松本城下町13町の一つにあたる。水野氏時代に編纂された『信府統計』によれば、慶長18年(1613)小笠原秀政が飯田より入部した際、南半分を奉公人衆の屋敷、北半分を町人地と定めたとの記述がある。今回の調査地は、北半部の町人地にあたる。小池町という町の名前の由来は2説あり、小池基之丞という軍学兵法の達人がいたためとか、もともとこの辺りに小さな池があったためなどと言われている。享保8～9年(1723～24)の『小池町町割図』(川辺家文書)によると、町人の屋敷は68軒あり、従事していた職種は18種におよぶ。内訳は、商人8軒、紺屋7軒、桶屋4軒、大工4軒、張子屋3軒、作人3軒、鍛冶2軒、綿打屋2軒、油屋、木挽屋敷、船屋、仕立屋、屋根屋、箱師などである。調査地に該当するとみられる箇所には、「鍛冶屋」との記載がある。今回の第Ⅱ検出面では、金属滓や鑄羽口などが大量に出土したため、町割図の記載と一致するものと考えられる。

2 調査地の基本土層

調査地の基本土層については右下の第4図に示した。現地表下40cm までが表土層である。第Ⅰ検出面として捉えたのはⅣ層上面の層界面である。この下層のⅤ層は、女鳥羽川系の洪水による堆積層と考えられる。Ⅰ検の推定年代が19c中頃～後半、Ⅱ検が18c後半～19c中頃であるため、この間の洪水と考えられる。近世の史料によれば、幕末期の安政6年(1859)7月梓川はじめ諸川氾濫、万延元年(1860)5月薄川・女鳥羽川の氾濫、慶応元年(1865)年5月大雨での諸川決壊など複数回の洪水記録がみられる。その下層のⅥ層が第Ⅲ検出面である。Ⅲ検の下層は地山で、薄川系の堆積土と考えられる。深掘り掘削での観察では、地表下2mまでは、滞水状態の堆積を示す黒色土層と流水状況を示す砂層が交互に堆積していた。

3 調査の方法

本調査事前の試掘調査においては、開発区域のほぼ全域に江戸時代の整地層を確認していたので、建物建設範囲を中心に281.8㎡を調査区として設定した。本調査は、試掘トレンチとサブトレンチを掘削し、土層の観察を実施しながら上面から順次面的調査を進めていった。また、最下層の地山面についても面的に確認調査を実施したが、上層面で捉えていなかった遺構以外は発見されなかった。しかし、摩滅した古墳時代の土器が数点出土しており、付近に該期の遺跡の存在が窺える。現場における遺構の測量作業は、Ⅰ～Ⅲ面共通で国土座標を用いた3m方眼を設定して行った。座標値は、原点座標(NSO、EWO)がX=25494.000、Y=-47211.000である。

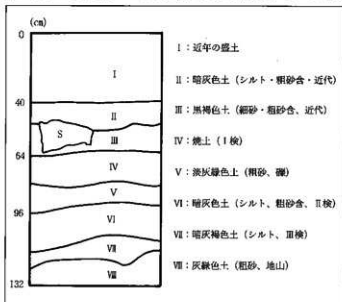
4 調査の成果

調査期間：平成18年2月13日～4月14日
調査面積：281.8㎡(Ⅰ～Ⅲ検のべ面積759.1㎡)
検出遺構：

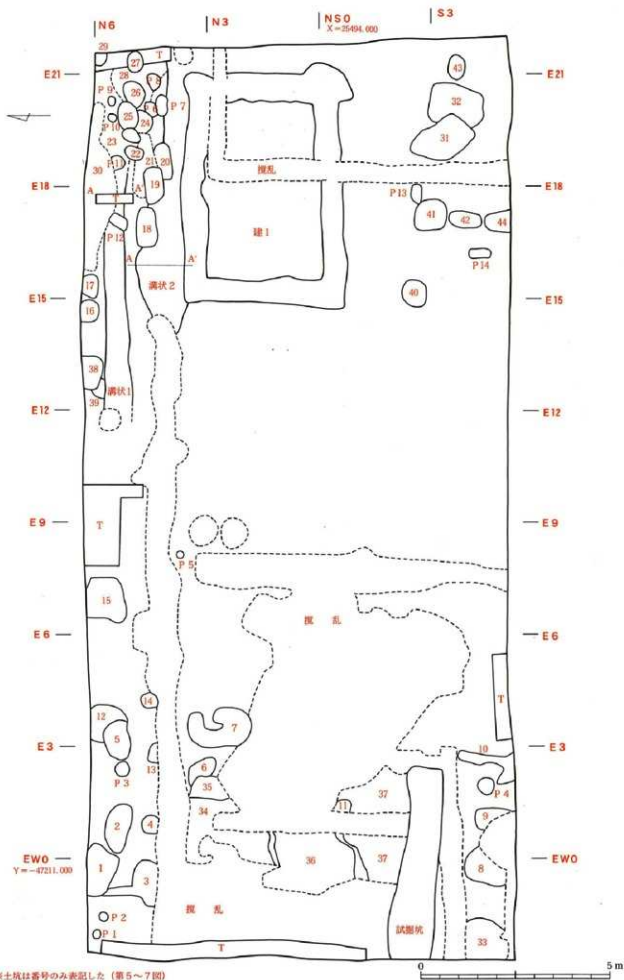
Ⅰ検 (19c中～後半) : 土坑44、ピット14、溝状遺構2、建物址1

Ⅱ検 (18c後～19c前) : 土坑137、ピット24、溝状遺構5、水道遺構1、埋設桶1、石列1

Ⅲ検 (17c前半～中) : 土坑50、ピット8、溝状遺構1

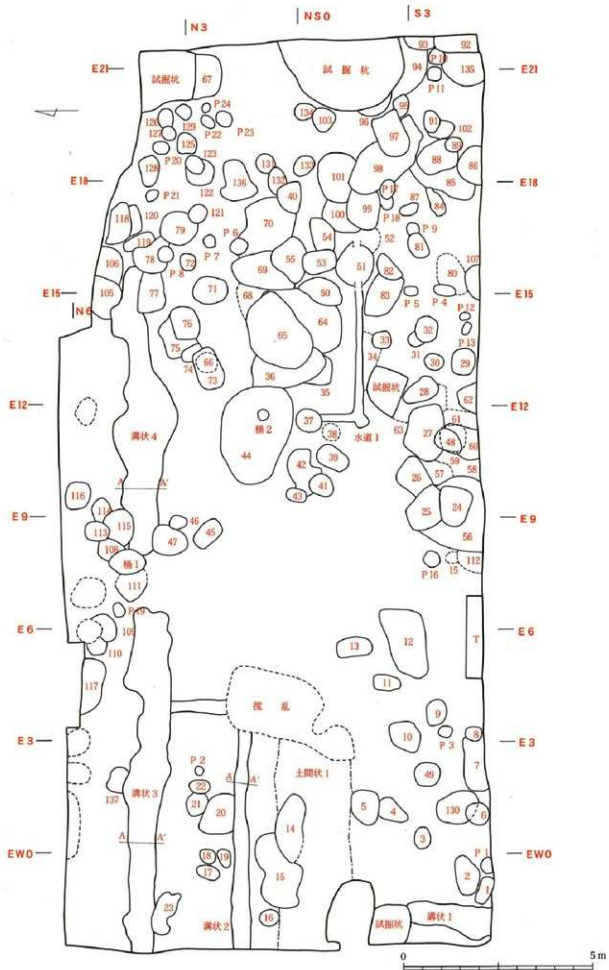


第4図 調査区西壁南端基本土層図

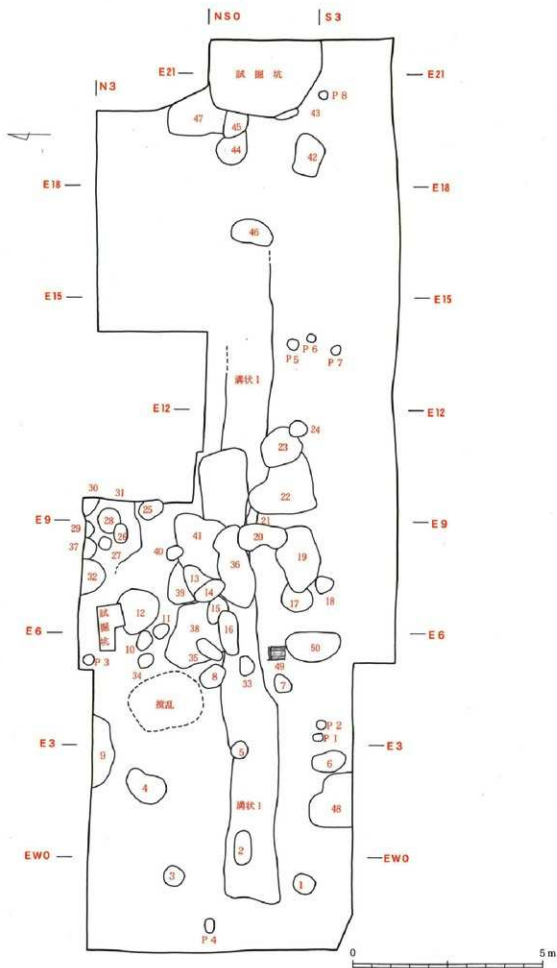


※土坑は番号のみ表記した (第5～7図)

第5図 第I検出面遺構全体図



第6図 第II検出面遺構全体図



第7圖 第Ⅲ檢出面遺構全体圖

III 調査結果

1 遺構

(1) 第Ⅰ検出面

調査区西半部は広範囲に攪乱を受けていたため、遺構は調査区東半部を中心に検出された。発見された遺構は、土坑44、ピット14、溝状遺構2、建物址1である。検出面には被熱痕が明瞭に確認でき、その上面に火災に起因すると考えられる焼土層が覆っていた。これらの焼土層と第Ⅰ検出面（以下○検と略）からは、幕末～明治期の陶磁器が混在しており、焼土層中から出土した最も新しい時期の出土遺物が、明治20年代の瀬戸・美濃産の染付印判手製品であった。Ⅰ検の年代推定にはこの火災層が指標となるが、出土陶磁器と史料に記された火災記録を併せて考えると、明治1年(1888)1月4日の極楽寺から出火した火災(松本大火)の可能性が高い。明治21年1月7日付の『信陽日報』によると、この大火で焼失した家屋は総計1,550戸にのぼり、小池町もほぼ全域にわたり類焼したようである。

ア 土坑

調査区北東隅で発見された土18・19・20は、いずれも長軸1～1.3m、短軸0.5～0.6m前後の小形土坑である。これらの土坑の覆土中からは、埴塼と金属滓が多量に出土した。出土した埴塼の個体数は、土18が23点、土19が2点、土20からは8点である。また鉄滓の出土量は、土18は1207.2g、土19は350.6gで、この他にも土22・25・26・41で多量に出土している（Ⅰ検鉄滓出土総量2,023.4g）。これらの土坑には、鍛冶生産に関連した痕跡は認められないため、埴塼・金属滓等の廃棄土坑と考えられる。

イ 溝状遺構

調査区北東部に東西に約12m延びる状態で1条検出された。幅0.8～1m、深さは0.4mを測る。掘り方内部には溝壁面に沿って板材が通り、それを固定すると考えられる杭材が打ち込まれている。覆土底部には砂層や漆黒層がみられ、水流あるいは滞水していた状況が窺える。位置・方向から敷地境の溝と考えられる。

ウ 建物址

調査区東端中央部において1棟検出された。規模は南北4～4.5m、東西6.0mで平面形態は長方形を呈する。建物基礎は布掘礎石工法で、幅0.5～0.8m、深さ0.2～0.3mの布基礎溝が長方形に巡っていた。この溝はグリ石と砂質土で根固めされ、その上面には礎石状の平坦な根石が設置されていた。一部の根石の上には間知石が設置されていたため、本来は長方形プラン全体に間知石が巡っていたものと考えられる。このような基礎構造の建物は、松本城下における他の調査事例から土蔵と考えられる。

(2) 第Ⅱ検出面

第Ⅱ検出面では、敷地表側と推定される西側に、礎石列・集石・土間状の遺構が確認された。中央部分は比較的遺構が少なく、調査区東側に土坑が集中して発見された。特に東側で発見された遺構は、ほとんどが廃棄土坑と考えられ、遺構の重複関係が著しい。

ア 土坑

調査区西側で発見された土坑は、比較的出土遺物が少ないものが多い。これに対して東側で検出された土坑は、出土遺物が多く、重複関係が著しい。Ⅱ検で発見された土坑の特徴を大別すると、①礫が多く含まれる土坑、②被熱痕がみられる土坑、③陶磁器や木製品などの出土遺物が多く含まれる土坑の3種類に分けられる。①とした礫が多量に伴うのは、土2・7・12・15～18・50・55・64・66・71・73などで、拳大の礫が覆土から底面にみられる。②とした被熱痕が確認されたのは、土4・5・15で、調査区西側でのみ確認されている。底面から壁にかけて被熱しており、一部に粘土が固まって見られた。③とした遺物が多量に出土したものは、土7・56・130などがある。調査区東側で検出された土坑は、ほとんどが遺物を多量に伴う。絵図等か

ら推定すると、調査区東側が敷地の奥側に相当すると考えられるが、松本城下町でのこれまでの調査結果から、これらは廃棄土坑と考えられる。このような廃棄土坑からは、一般的に陶磁器・木製品・金属製品など多種多様な遺物が出土するが、今回の調査では金属滓や鞆羽口などが多量に出土したという特徴が挙げられる。こうした遺物は、日常生活で排出される廃棄物ではなく、調査箇所のある町屋の生業にかかわる産業廃棄物と考えられる。Ⅱ検からの出土総量は、金属滓110.0179kg、鞆羽口33.459kg(74個体以上)を測る。特に、土78・79・36などは出土量が多量であった。

土44は、2.6×1.9mの不整形円形を呈する。掘り方の北壁面では、径2～4cmの杭が垂直に24本打ち込まれ、その杭の前後を交互に竹を絡ませていた。このような遺構は、江戸遺跡(汐留遺跡ほか)や松本城下の調査事例においても確認されている「しがらみ遺構」(土留め遺構)と考えられる。松本城下では、今回検出された事例の他に、杭の前後に板材を交互に絡ませている事例も認められている。出土遺物は、陶磁器の他に沢瀉文(城主水野氏家紋)の軒丸瓦が出土した。本址中央やや東寄りには、桶2が検出された。径約30cmの桶で、底板も残されていた。土44の底面を20cmほど掘り込んで設置されていたが、用途は不明である。

イ 溝状遺構

調査区西・北部において、計5条検出された。溝状2・5は、覆土中に多量の拳大の礫が含まれていた。溝状3・4は部分的なトレンチでの確認であったが、底面端から壁面に杭材が打たれており、東西方向に直線的に延びている。敷地境の区画溝の可能性が考えられる。

ウ 水道遺構

調査区中央やや南東寄りに位置している。幅20～25cmの掘り方の中に、径6～10cmの節を抜いた竹製の管が設置されていた。この竹製の管は、木製の継手(ジョイント)により接続されると同時に、継手部分で配管方向を北へ90°振っている。継手部分の周囲は、水漏れ防止のために粘土で厚く固めてあった。竹管は土37に接続していることは確認できたが、その北側の土44まで延びているのかどうかについては、湧水のため捉えられなかった。

(3) Ⅲ検出面

Ⅲ検として捉えた面は、地山面の上層である第7層(第4図)の層界面である。地山面には遺構は発見されなかったため、城下町の生活面としては最下層となる。Ⅲ検で発見された遺構は、溝状遺構と土坑である。このうち土坑の中には、Ⅱ検で捉えきれなかったものをⅢ検で調査したものがある。なお、Ⅲ検調査終了後に地山面の面的確認作業を実施したところ、遺構は皆無であったが、古墳時代とみられる摩滅した土器片が出土した。このため、付近には該期の遺跡が存在する可能性が考えられる。

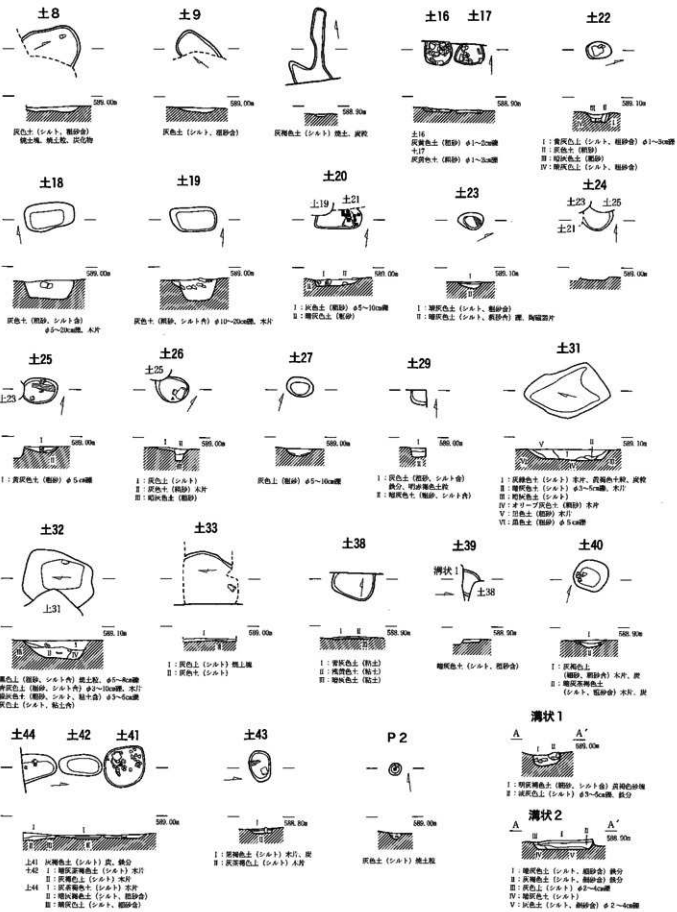
ア 土坑

調査区中央付近において、溝状Ⅰを切る状態でかなり重複して検出された。それらのほとんどの土坑には遺物が多量に含まれていたため、廃棄土坑と考えられる。出土遺物をみると土13・16・26～32・36・39～41などはⅡ検の遺構である可能性も考えられる。土48は、覆土中に炭化種子が多量に含まれていた。この種子は、マメガキ(通称コガキ)とみられる(森義直氏ご教示による)。マメガキは、食されたり柿渋の原料とされているものである。土49は、36×46cmの木板を箱型に組んだ状態で発見された。明確な掘り方は無く、周囲に拳大の礫が集中していた。用途等は不明である。

イ 溝状遺構

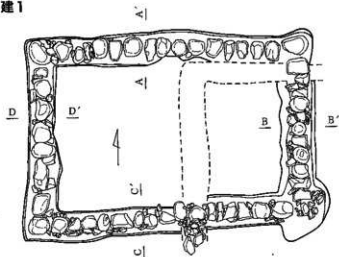
調査区中央付近に東西方向に通る溝状遺構が1条発見された。長さ17m、幅1.2～1.5m、深さ0.3～0.4mを測る。調査区東端は多量の湧水で調査不可能であったため、本址東端部は捉えきれなかった。断面形は西側がU字形、東側はV字形を呈している。溝断面形が東と西で異なり、中央部分でやや方向が変わることから2条の溝状遺構の切り合いである可能性がある。覆土中からは17c前半の遺物が出土した。

I 棟



第8図 遺構(1)

建1



- I: 灰褐色土 (シルト、細砂合) 褐色土層、黄褐色土粒
- II: 赤褐色土 (細砂) φ1~3cm
- III: 灰褐色土 (シルト、細砂合) φ0.5~1cm、褐色土粒



- C: 灰褐色土 (細砂、シルト合)
- D: 黄褐色土 (シルト)

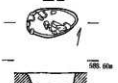
II 横

±7



- I: オリーブ黒色土 (粘土、シルト合) 黄褐色土粒
- II: 黒色土 (シルト、細砂合) φ3~5cm

±2



- 黒色土 (シルト、細砂、粗砂合) φ3~15cm

±3



- 黄褐色土 (粘土、シルト合)

±4



- 灰褐色土 (粘土、シルト合)

±5



- I: 黄褐色土 (粘土、シルト、細砂合)
- II: 黒色土 (シルト) φ5cm、灰化層
- III: オリーブ灰褐色土 (細砂、粗砂合) φ3~5cm

±6



- 黄褐色土 (粘土、細砂、粗砂合)

±9



- 灰褐色土 (粘土、シルト、細砂合) 灰褐色土粒、φ0.5~1cm

±10



- I: 灰褐色土 (粘土、シルト、細砂合) φ4褐色土粒
- II: 黄褐色土

±7



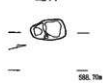
- ±7 黄褐色土 (粘土、シルト、細砂合)
- ±8 灰褐色土 (細砂、粗砂合) φ1~3cm

±8

±7・8遺物出土図



±11



- 灰褐色土 (粘土、シルト合)

±13



- 灰褐色土 (粘土、シルト、細砂合)

±16



- 黄褐色土 (シルト、細砂、粗砂合) 黄褐色土粒

±12



- 灰褐色土 (細砂) φ5~15cm

±12遺物出土図

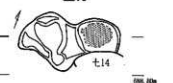


±14



- 灰褐色土 (粘土、シルト合)

±15



±17 ±18



- ±17 I: 黄褐色土 (細砂、粗砂合)
- II: 黄褐色土 (粘土、シルト合) φ3~5cm

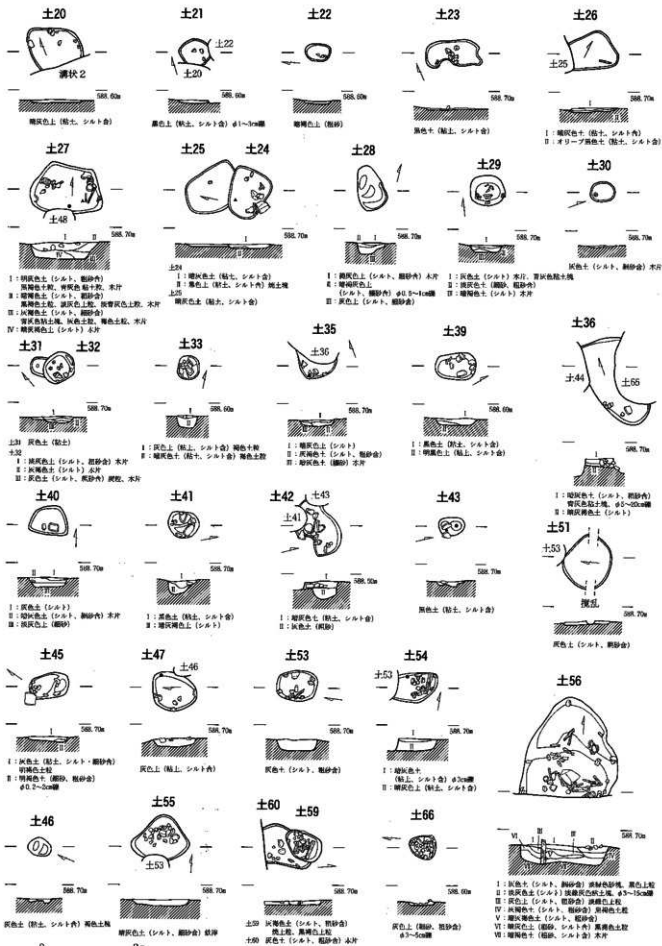
±19



- ±19 黄褐色土 (粘土、シルト合)

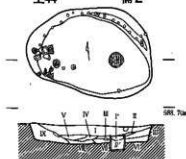


第9図 遺構(2)



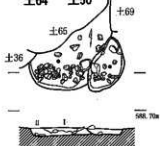
第10図 遺構(3)

±44 桶2



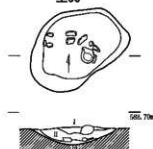
- ±44 I: 灰褐色土(粘土、磁粉内)木片、φ3~7cm
 II: 明褐色土(粘土)
 III: 暗褐色土(磁粉)暗褐色土、φ4.1~0.5cm
 IV: 明褐色土(粘土、磁粉内)木片、φ0.5~0.2cm
 V: 灰褐色土(磁粉、シルト土)木片、明褐色土粒
 VI: 灰褐色土(磁粉)暗褐色土、φ0.5~1cm
 VII: 暗褐色土(磁粉、シルト土)木片
 VIII: 暗褐色土(粘土、磁粉内)φ0.5~1cm、木片
 IX: 灰褐色土(磁粉)φ5~0.2cm、木片
 X: 暗褐色土(磁粉)φ5~0.2cm、木片
 XI: 暗褐色土(シルト)φ0.5~0.2cm
 XII: 暗褐色土(シルト)木片

±64 ±50



- ±50 I: 暗褐色土(磁粉)鉄片、φ0.5~1cm、磁粉
 II: 暗褐色土(シルト)明褐色土粒
 III: 暗褐色土(シルト、磁粉内)φ0.5~0.2cm、暗褐色土粒

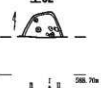
±65



- I: 暗褐色土(シルト、磁粉内)木片
 II: 暗褐色土(シルト)木片、φ1~0.2cm
 III: 明褐色土(シルト、磁粉内)φ1~0.2cm

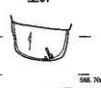
桶2

±62



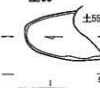
- I: 暗褐色土(シルト、磁粉内)
 II: 暗褐色土(シルト、磁粉内)φ5~7cm、暗褐色土粒

±67



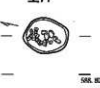
- I: 暗褐色土(シルト、磁粉内)鉄片

±69



- I: 灰褐色土(シルト、磁粉内)φ3~5cm
 II: 暗褐色土(シルト)

±71



- I: 暗褐色土(粘土、シルト土)

±72



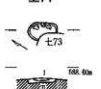
- I: 暗褐色土(シルト)

±73



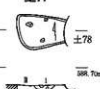
- I: 暗褐色土(粘土、シルト、磁粉内)φ3cm
 II: 暗褐色土(粘土、シルト土)

±74



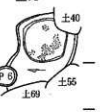
- I: 暗褐色土(粘土、シルト、磁粉内)暗褐色土、φ2~3cm
 II: 暗褐色土(粘土、シルト)

±77



- I: 暗褐色土(磁粉、磁粉内)φ3cm
 II: 暗褐色土(シルト)

±70



±70遺物出土図

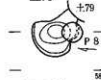
- I: 暗褐色土(粘土、シルト土)φ3~5cm
 II: 灰褐色土(粘土、シルト土)暗褐色土粒

±75 ±76



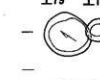
- ±75 I: 暗褐色土(粘土、シルト土)
 II: 暗褐色土(シルト、磁粉内)
 III: 暗褐色土(粘土、シルト土)
 IV: 暗褐色土(粘土、シルト土)φ1cm
 V: 暗褐色土(粘土、シルト土)

±78



- I: 暗褐色土(シルト、磁粉内)暗褐色土、φ3~5cm

±79 ±121



- ±79 I: 暗褐色土(シルト、磁粉内)木片、φ2~3cm
 II: 暗褐色土(シルト、磁粉内)木片、φ0.5~3cm
 III: 暗褐色土(シルト、磁粉内)木片、φ0.5~3cm

±78・±79鉄滓出土図

±78・±79遺物出土図

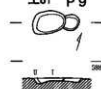


±87



- I: 灰褐色土(シルト、磁粉内)鉄片

±81 P9



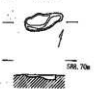
- I: 暗褐色土(シルト)鉄片
 II: 灰褐色土(シルト)鉄片
 III: 暗褐色土(シルト)鉄片
 IV: 暗褐色土(シルト)鉄片

±83 ±82



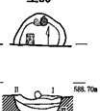
- ±82 I: 暗褐色土(シルト)木片
 II: 暗褐色土(シルト、磁粉内)鉄片

±84



- I: 灰褐色土(粘土、シルト、磁粉内)

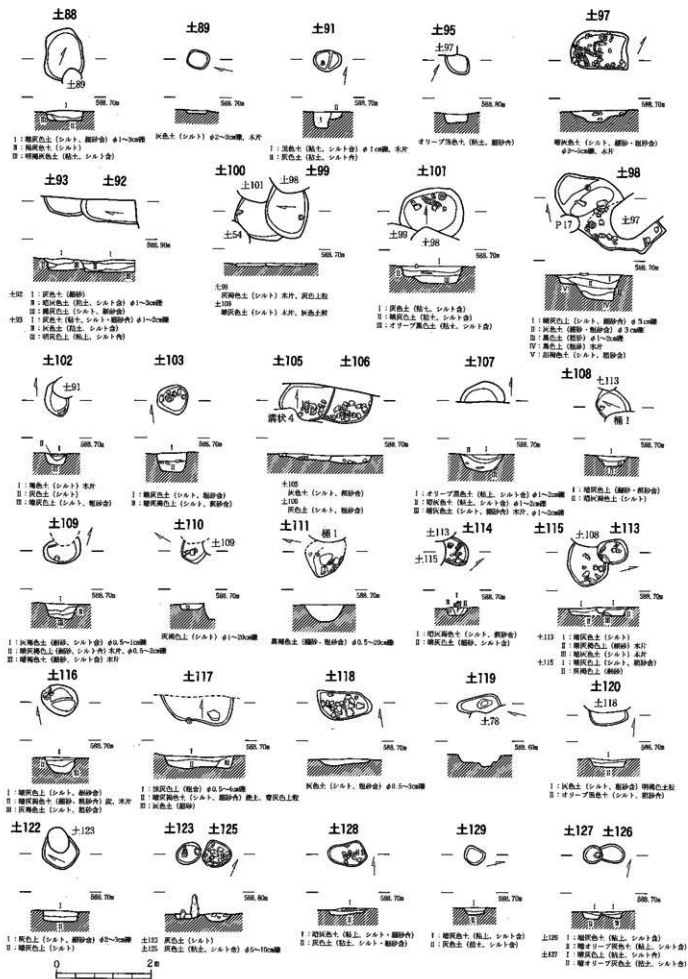
±86



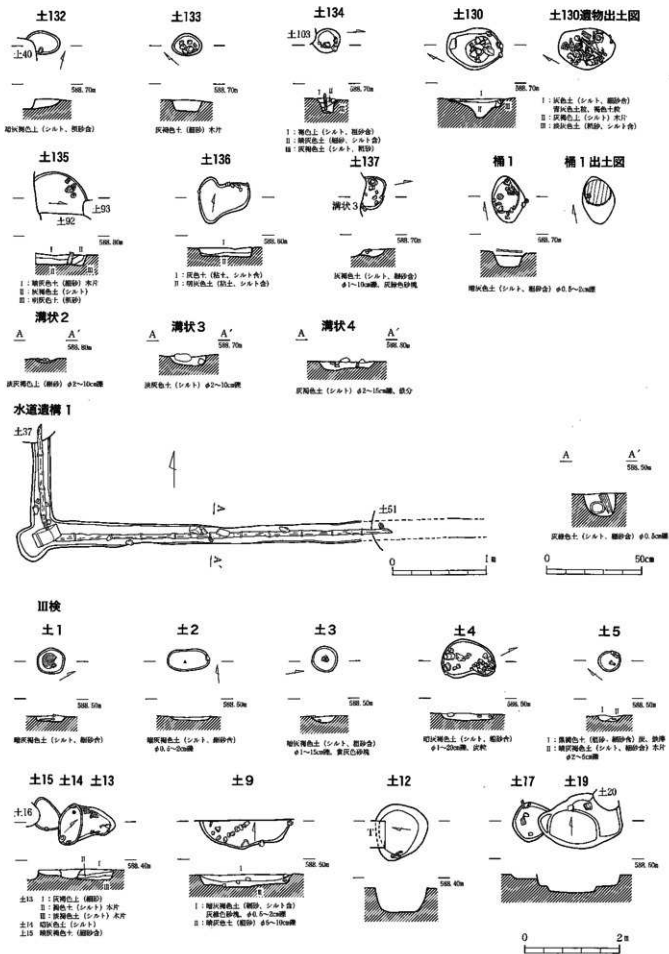
- I: 暗褐色土(磁粉、磁粉内)木片
 II: 灰褐色土(シルト、磁粉)φ3cm
 III: オリーブ褐色土(磁粉、磁粉内)φ5~5cm
 IV: 暗褐色土(磁粉、磁粉内)木片、φ2~3cm



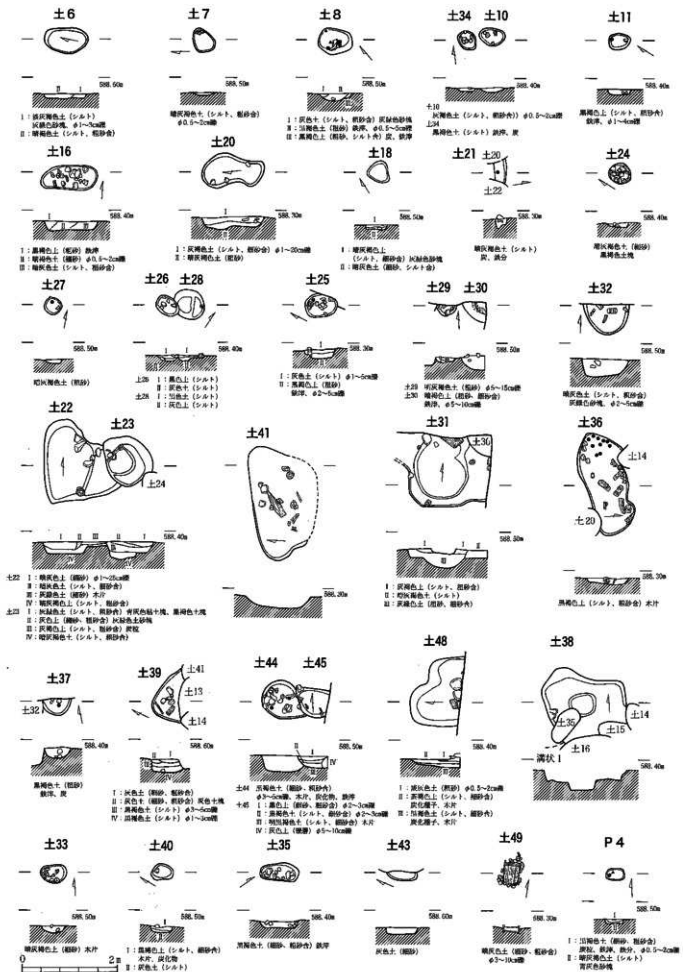
第11図 遺構(4)



第12図 遺構(5)



第13図 遺構(6)



第14図 遺構(7)

2 遺物

(1) 土器・陶磁器・土製品

今回の調査で出土した土器・陶磁器・土製品は、総計コンテナ28箱にのぼった。これらの出土総重量は、166.707kg（Ⅰ検：46.301kg、Ⅱ検：82.404kg、Ⅲ検：38.002kg）を測る（出土量平均：1㎡あたり591.6g）。このうち図示可能な512点の実測図を掲載した。これらの遺物の細かな観察は第2表で示したので、各検出面と全体の様相を以下に述べていく。

ア 第Ⅰ検出面の様相

Ⅰ検の実測個体数は228点である。種別は、陶器・磁器・瓦質土器がみられる。生産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、常滑がみられる。肥前産は26点で全体の11.4%【内訳：陶器1点（0.4%）・磁器25点（11.0%）】である。これに対して瀬戸・美濃産は、128点で56.1%【内訳：陶器38点（16.7%）・磁器90点（39.4%）】を占め、Ⅰ検出土土器・陶磁器群の主体となっている。特に磁器製品では肥前産を大きく上回り、器種別においても食膳具の主体を占めている。瀬戸・美濃産の磁器製品は、染付方法が手書きのものに加え、型紙摺り・銅版転写のものも出土していることから、19世紀中頃から1870～80年代（明治20年代）までの時期設定が考えられる。その他では、京・信楽産は10点（4.4%）、常滑は1点（0.4%）、この他、産地不明の多量の埴塙や土師質・瓦質土器の埴戸・火鉢などが出土した。

イ 第Ⅱ検出面の様相

Ⅱ検では、197点の実測図を掲載した。種別は、陶器・磁器・瓦質土器・土器がみられ、産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、常滑がみられる。年代観の上限は、瀬戸・美濃産の漆黒軸拳骨茶碗製品・灰赤鉄袖掛け分け製品などがみられることから1750～70年代以降と考えられ、下限は瀬戸・美濃磁器染付製品（炆器・磁器）の出土から19世紀中頃と推定される。産地別組成をみると、肥前産は65点（33.0%）【内訳：陶器4点（2.0%）・磁器61点（31.0%）】で、磁器製品の主体生産地となっている。これに対して、瀬戸・美濃産は99点（50.3%）【内訳：陶器91点（46.2%）・磁器8点（4.1%）】で、陶器製品が主体となっている。その他は、京・信楽産14点（7.1%）、常滑産2点（1.0%）、在地産土器（Ⅲ）5点（2.5%）、瓦質土器3点（1.5%）がみられる。全体組成での特徴をみると、陶器製品は瀬戸・美濃産、磁器製品は肥前産という種別により産地が固定している状況で、両生産地で全体量の78%を占める。

ウ 第Ⅲ検出面の様相

Ⅲ検では83点の実測図を掲載した。種別は、陶器・磁器・土器である。産地別にみると、瀬戸・美濃、肥前、在地産がみられる。瀬戸・美濃製品は、大窯期のものは1点のみで、ほぼ通房期以降の製品で構成される。肥前産は、磁器製品の他に、京焼風肥前陶器などの陶器製品も若干量出土している。これらの様相から、Ⅲ検は17世紀前半～18世紀前半の年代が推定できる。産地別の組成は次の通りである。瀬戸・美濃産は陶器製品のみで、42点（50.0%）出土した。肥前産は28点（33.3%）【内訳：陶器10点（11.9%）・磁器18点（21.4%）】である。京・信楽産は1点のみ（1.2%）、在地産土器Ⅲは11点（13.1%）である。

エ 陶磁器の産地別出土傾向について

各検出面の産地別組成を集計し、出土傾向を第1表に示した。これをみると、常に高い割合で安定的に流通していたのは瀬戸・美濃産の製品であることが明らかである。各検出面においては全体量の50%を超えている。碗・皿などの食膳具をはじめ、播鉢・練鉢などの鉢類では瀬戸・美濃産がほぼ独占する。特にⅡ・Ⅲ検段階で肥前産が独占していた磁器類において、Ⅰ検の段階では瀬戸・美濃産が独占するようになる。これに対して肥前産は、Ⅱ・Ⅲ検の段階では3割強の流通がみられたものの、Ⅰ検では1割ほどに減少している。急激に減少した背景は、京・信楽産の増加や、瀬戸・美濃における磁器生産の開始などが考えられる。明治期では、瀬戸・美濃染付製品がさらに増加し、肥前産磁器製品は減少の一途を辿る。京・信楽系は、18c後

～19c 前にかけて僅かに増加しているが、近畿地区のように出土陶磁器での主体製品とはならない。このような状況は、概ね長野県の中・南信地区では同様の傾向にあるが、東・北信においては肥前産の日常雑器製品(摺鉢など)が一定量流通しており、長野県の北と南では異なった様相を示している。

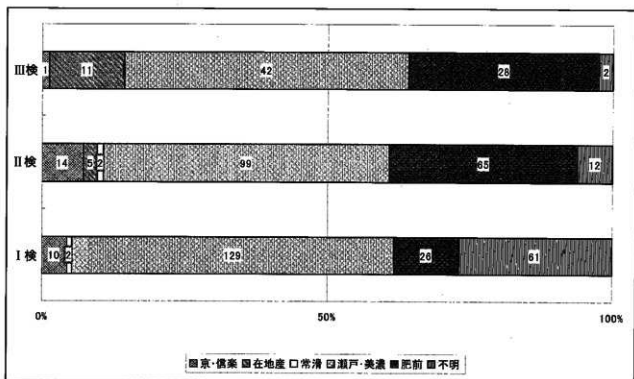
オ 増場

器面が被熱し、金属滓が多量に付着しているものを増場とした。総点数57点を数える。これらは、碗・小杯・湯呑碗などを転用したもの(464～478・496・497・499)と、増場専用器と考えられるもの(458ほか)に大別される。後者は陶製で、底径が小さく、上方に向けて僅かに内湾しながらハの字状に開く。法量は、底径が3.2～4.0cm、口径は6.0～7.0cm、器高4.8～5.7cmを測る。これらの生産地は不明である。

カ 襷羽口

土坑を中心に、総量51.081kg、破片数152点(101個体以上)が出土した。完形品はなく、すべて炉側先端部あるいはその付近の破片資料である。いずれも先端部には金属滓が多量に付着しており、橙色から灰色に変色した被熱痕が顕著に確認できる。形態は、外径8.5～9.5cm(平均9.0cm)、通風孔径1.7～2.4cm(平均2.1cm)のもので、器面調整は指ナデ・板状工具ナデにより調整されている。胎土は、石英粒・長石粒・堆積岩粒を含んでおり非常に粗い。

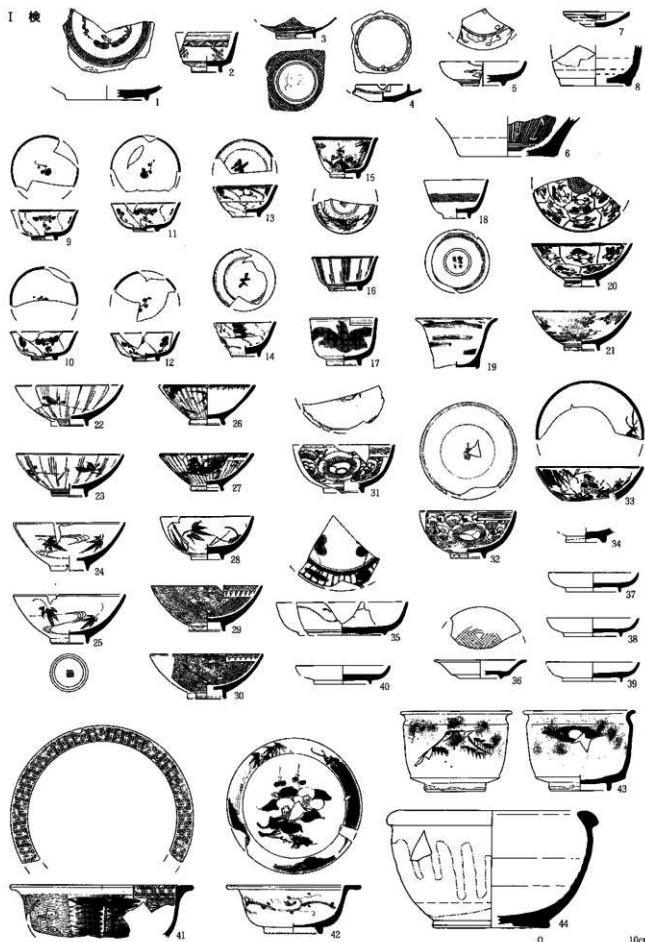
第1表 土器・陶磁器産地別組成一覧



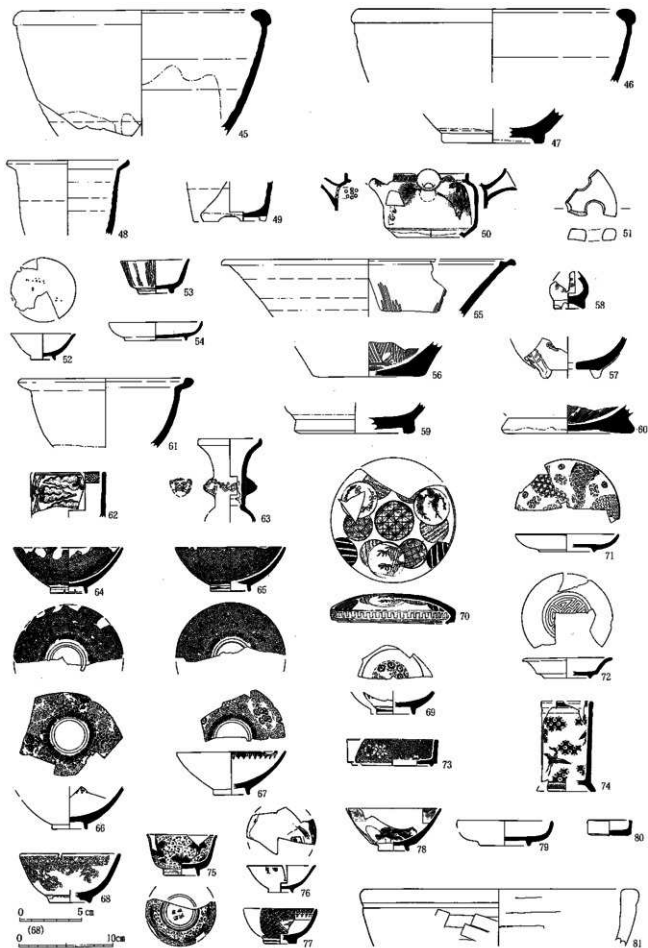
データの個数/種別	推定産地						総計
	京・信楽	在地産	常滑	瀬戸・美濃	肥前	不明	
第Ⅰ検出面	10	0	2	129	26	61	228
第Ⅱ検出面	14	5	2	99	65	12	197
第Ⅲ検出面	1	11	0	42	28	2	84
総計	25	16	4	270	119	75	509

※産地不明の中には、増場が含まれている。

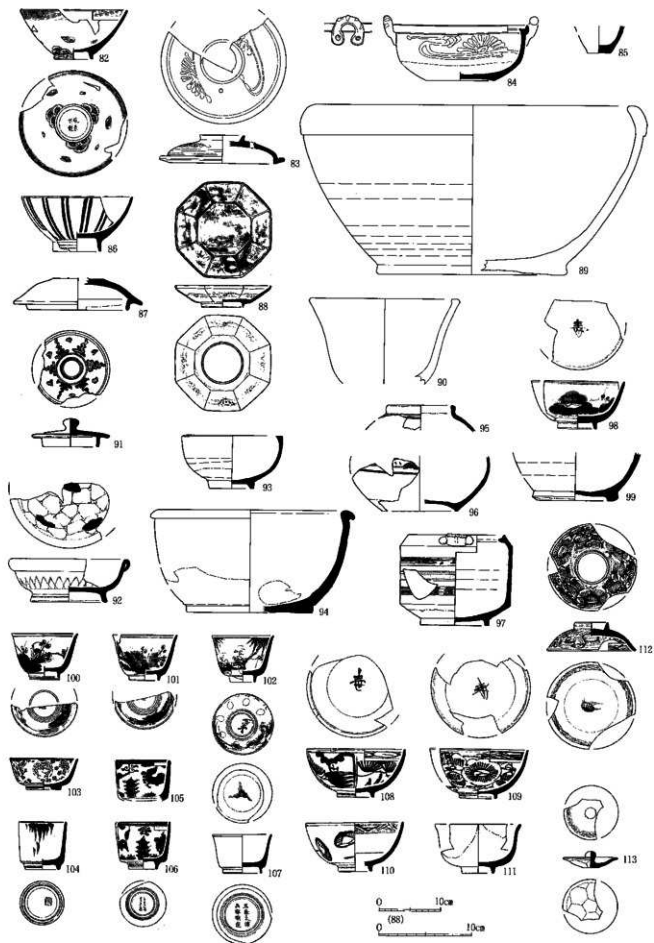
I 檢



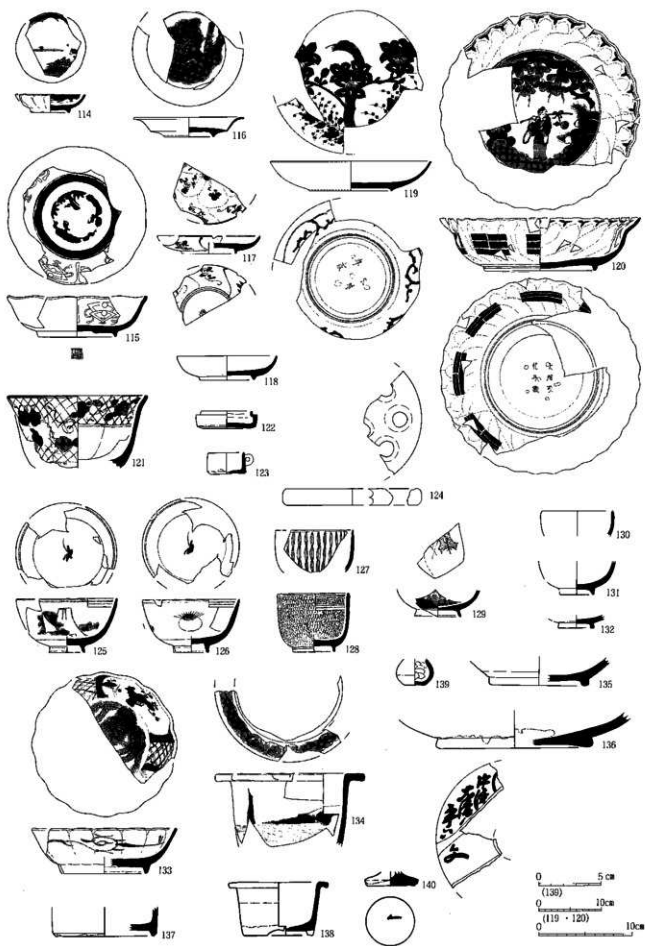
第15图 土器·陶磁器(1)



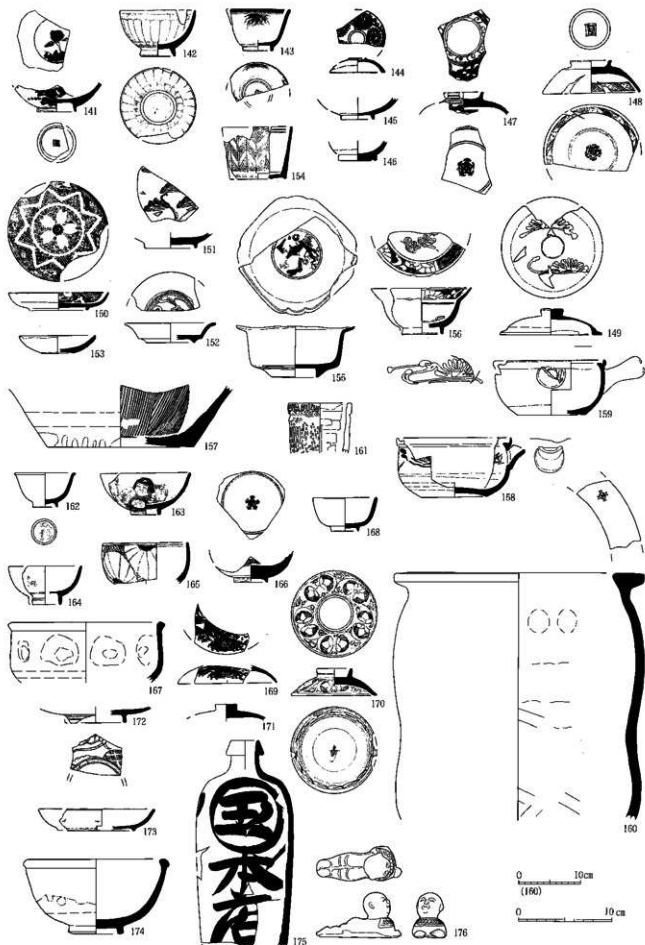
第16图 土器·陶磁器(2)



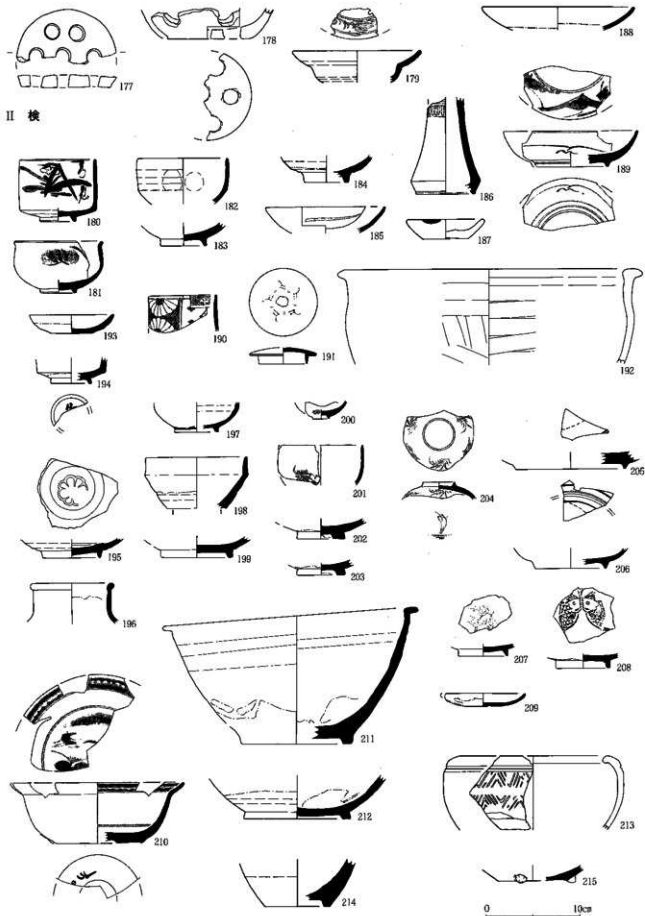
第17图 土器·陶磁器(3)



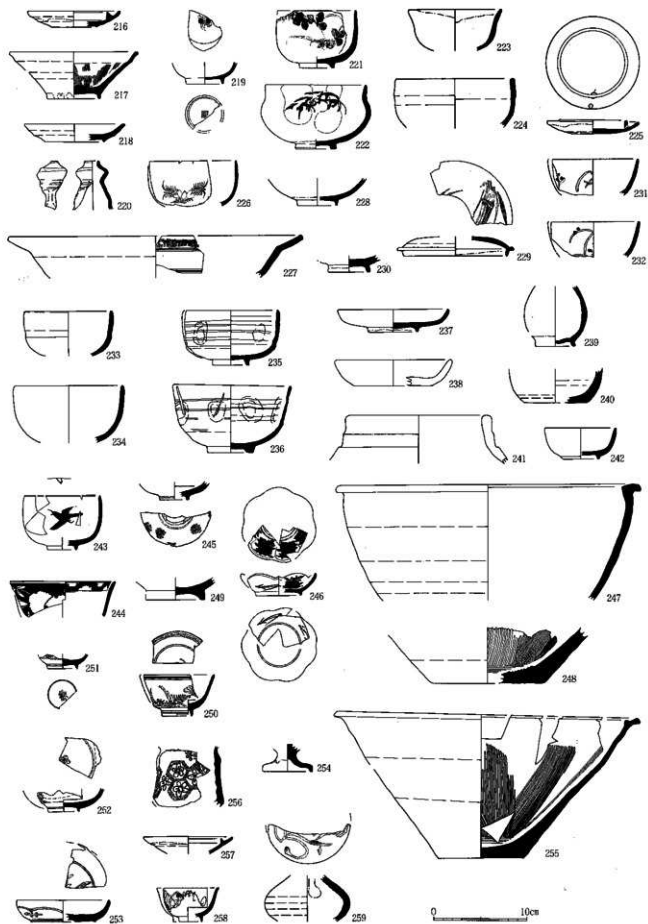
第18图 土器・陶磁器(4)



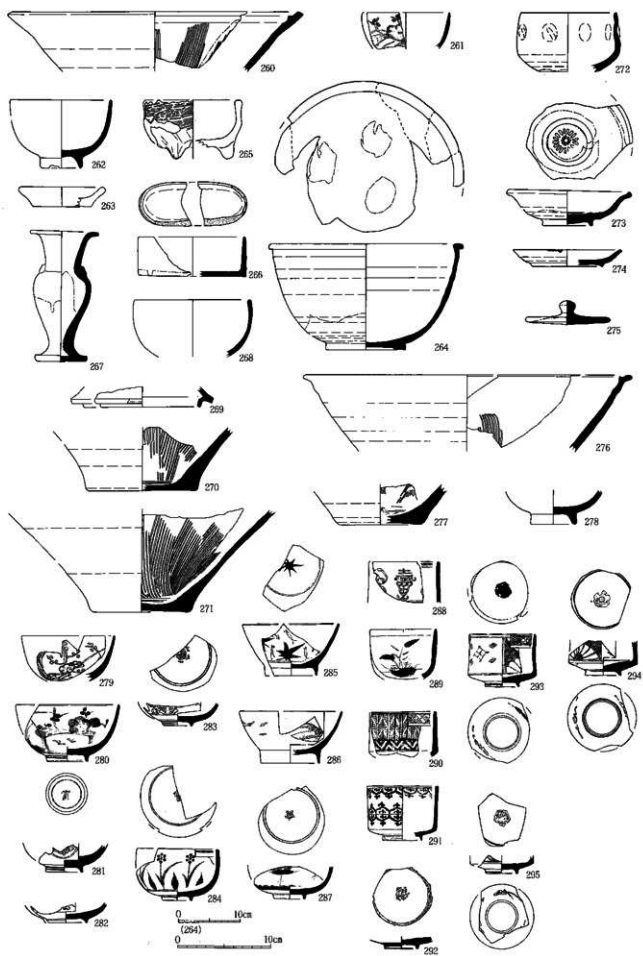
第19图 土器・陶磁器(5)



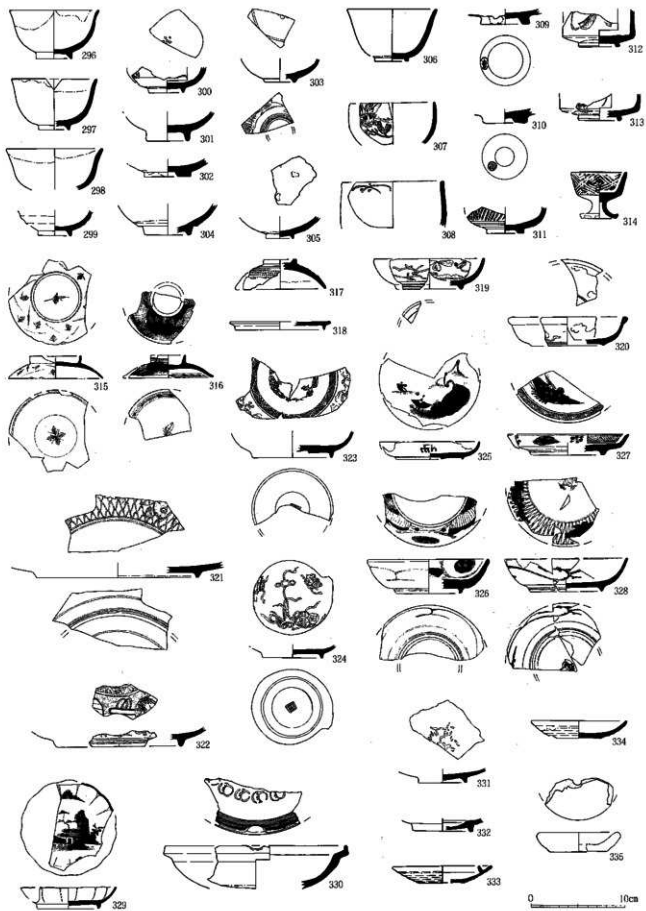
第20回 土器・陶磁器(6)



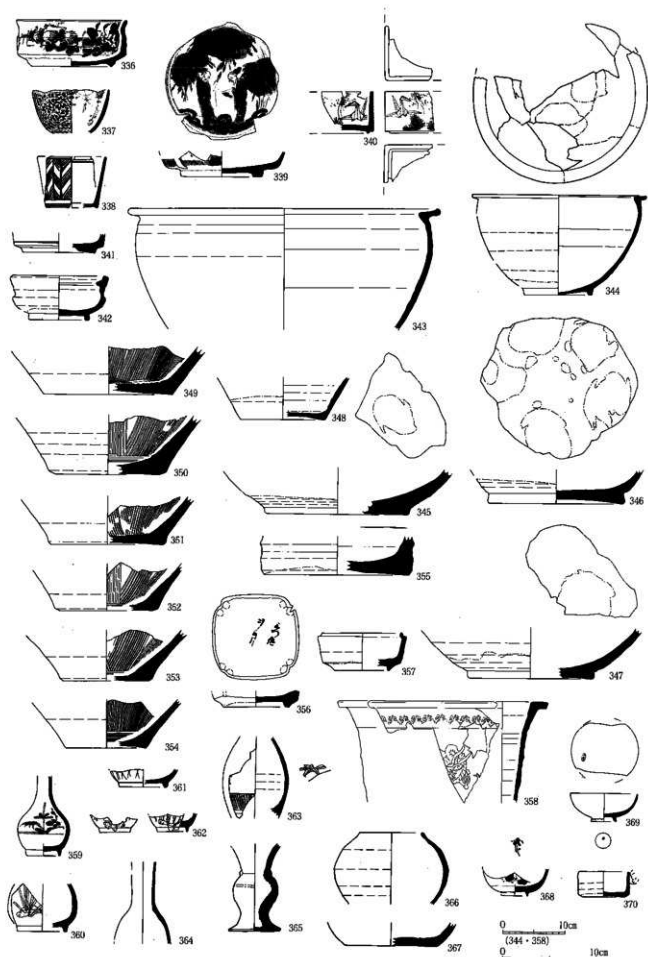
第21图 土器·陶磁器(7)



第22图 土器・陶磁器(8)



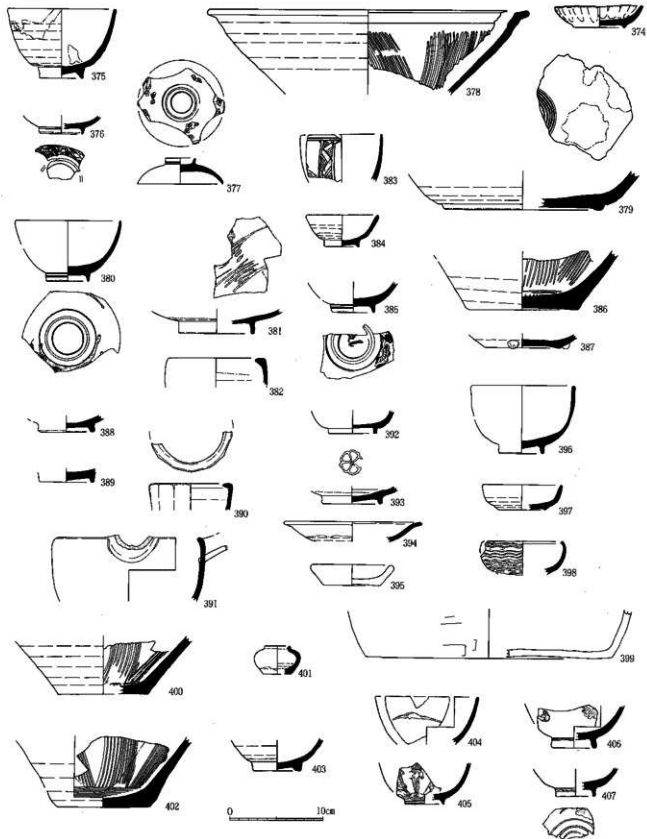
第23图 土器·陶磁器(9)



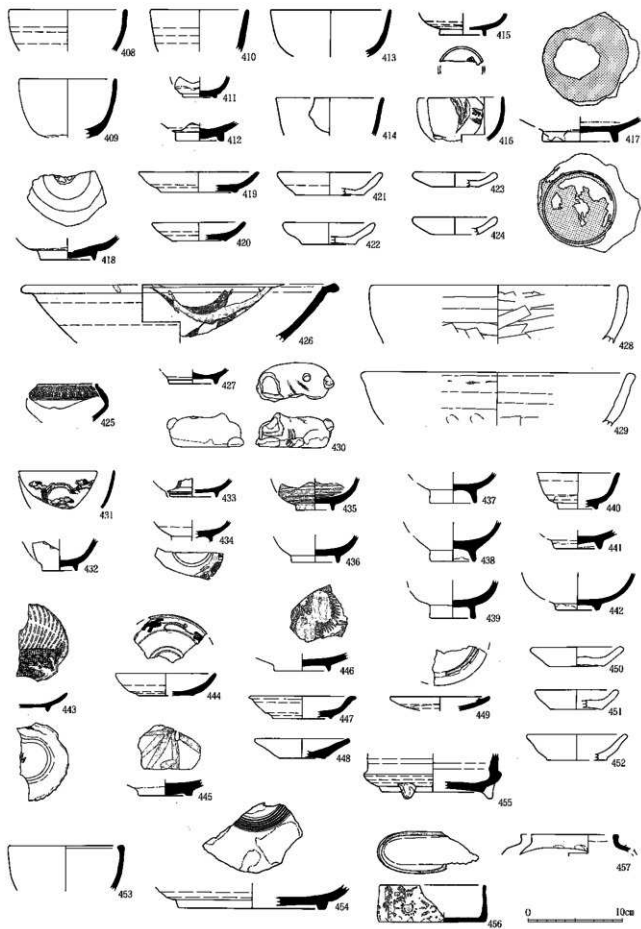
第24图 土器・陶磁器00



III 椀

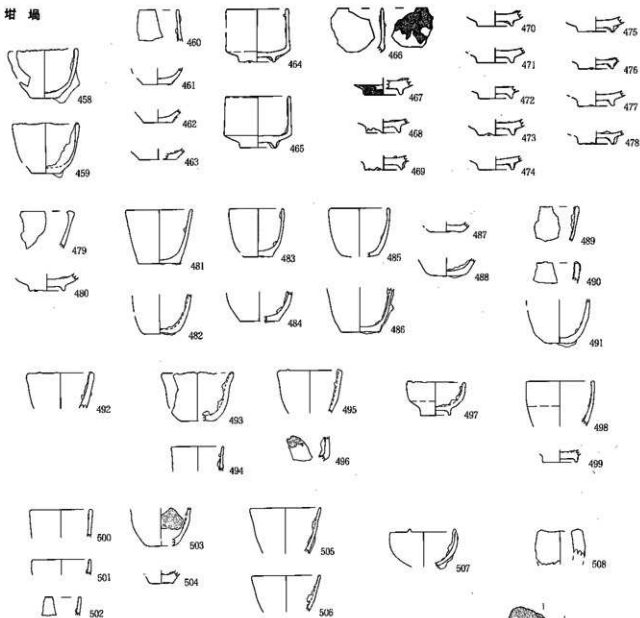


第25图 土器·陶磁器(1)

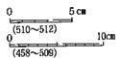
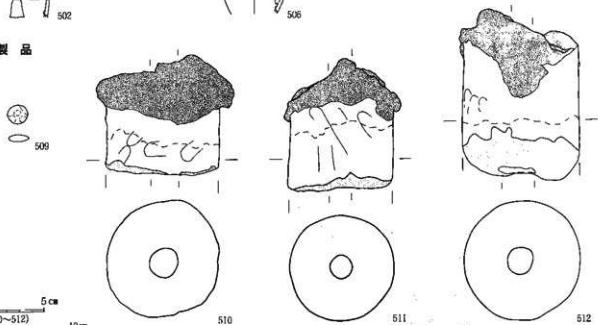


第26图 土器・陶磁器②

埴 塼



土 製 品



第27図 土器・陶磁器3

(2) 木製品

今回の調査では、木製品142点が出土した。このうち残存状況が悪く実測不可能な26点を除く計116点を図化して掲載した。このうち漆器は36点、木器は80点である。器種は、曲物・円板・下駄・栓・櫛・膳・柄杓・箸・椀などがみられる。Ⅰ～Ⅲ検を通じて多く出土した器種は、下駄37点(31.9%)、円板25点(21.5%)、漆椀12点(10.3%)である。以下、検出面ごとに概要を述べていく。

ア 第Ⅰ検出面

下駄と栓の2点(1・2)が出土した。下駄は台槽円形連歯下駄、栓は円錐台形を呈するもの。

イ 第Ⅱ検出面

計46点が出土した。器種は、円板・曲物・曲物蓋・柄杓・椀・蓋・膳・櫛・下駄・栓・箸・水道遺構継手・不明品など食器・調度品・その他の道具類など多様に及ぶ。

(ア) 円板

最も多く出土したのは、曲物の底板と考えられる円板で13点を数える。このうち漆器の円板は4点(6・10・23・46)、その他は木器である。これらは径により3種(1～3群)に分けられる。1群は径27.0～33.0cmを測る大形品で、6・21が該当する。2群は径16.2～22.0cmを測るもので、17・32・42・29が該当する。3群は径7.2～13.1cmの小形のもので、10・23・28・38・31・44・46が該当する。

(イ) 漆椀

2点(22・39)出土した。39は内外両面とも朱漆の上に黒漆を重ね塗りしているものである。22は内面が朱漆、外面に黒漆が塗られている。

(ウ) 漆器蓋類

6点出土している。3・8・11・12は椀蓋である。8・12には外面に文様が描かれている。

(エ) 下駄

7点出土した。台方形連歯下駄5点、台槽円形連歯下駄2点がみられる。すべて連歯下駄で差歯下駄はみられない。35は、前歯部に釘による補修した痕跡が3箇所残る。

(オ) 櫛

3点(7・15・41)出土した。いずれも平面形は蒲鉾形を呈するもので、棟部が円形のもの(15)と方形のもの(7・41)がある。

ウ 第Ⅲ検出面

計68点出土した。器種は、円板・曲物・蓋・柄杓・椀・箸・下駄・刃類の柄・把手などがみられる。

(ア) 下駄

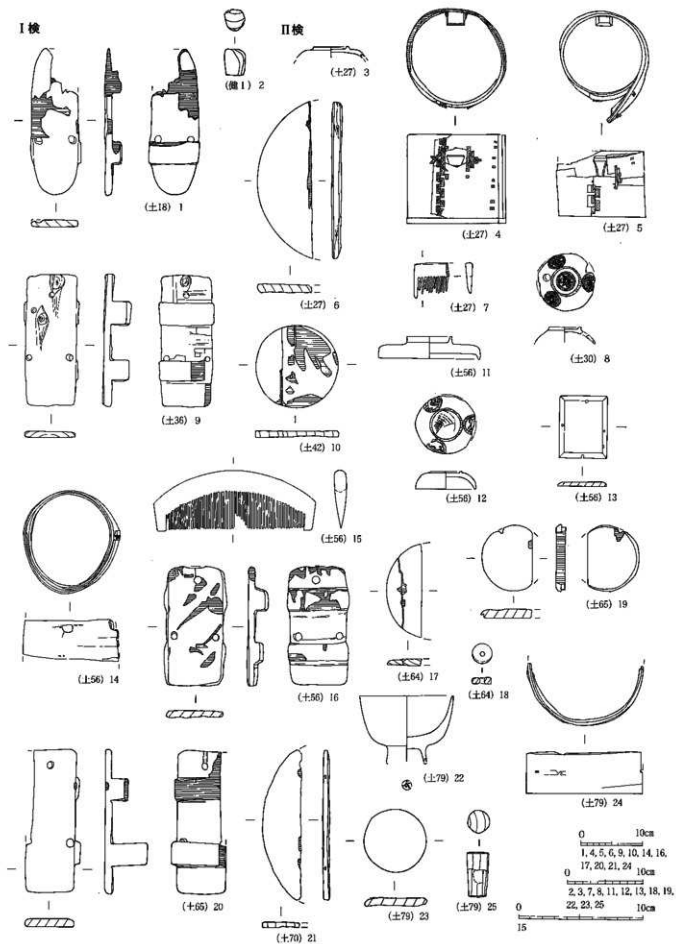
Ⅲ検出土量の約4割を占める計27点が出土した。ほとんどが連歯下駄であるが、89のみ差歯下駄(露卯下駄)である。台形状では、台槽円形のもの(9点)と台方形のもの(18点)がみられる。

(イ) 椀

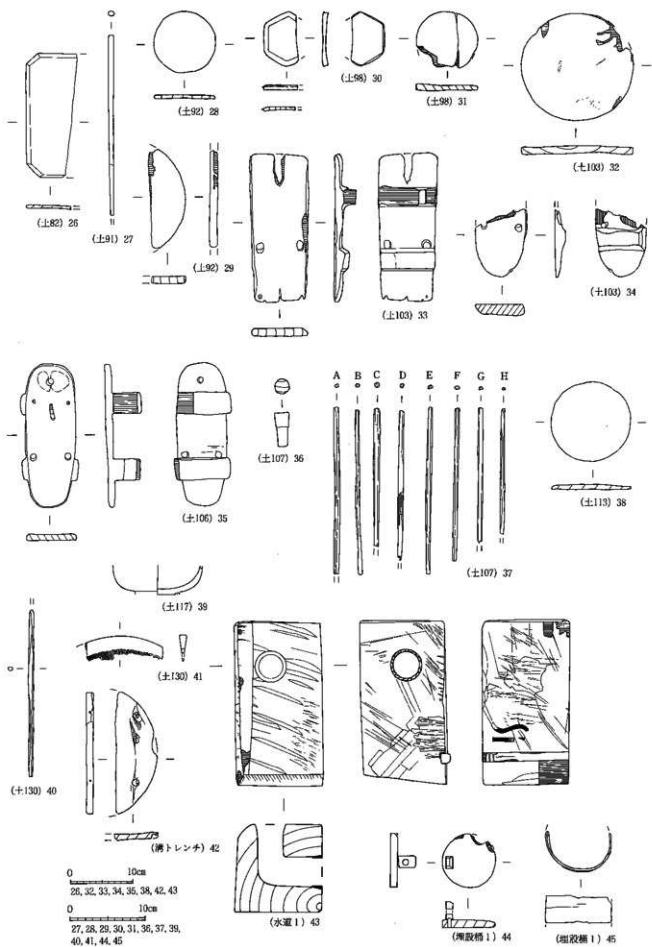
計10点出土した。漆の塗り重ね方法により、3種類(①～③)に分類できる。①は、内外面ともに黒漆の上に朱漆を重ね塗りしているもので、8点(52・58・63・65・72・84・102・109)出土した。このうち109は外面に文様が残っている。②は、内面が黒漆の上に朱漆、外面は黒漆の上に朱漆で文様が描かれているもので、1点(73)出土している。③は、内外両面ともに黒漆のみで仕上げられているもので、1点(82)出土した。

(ウ) 曲物

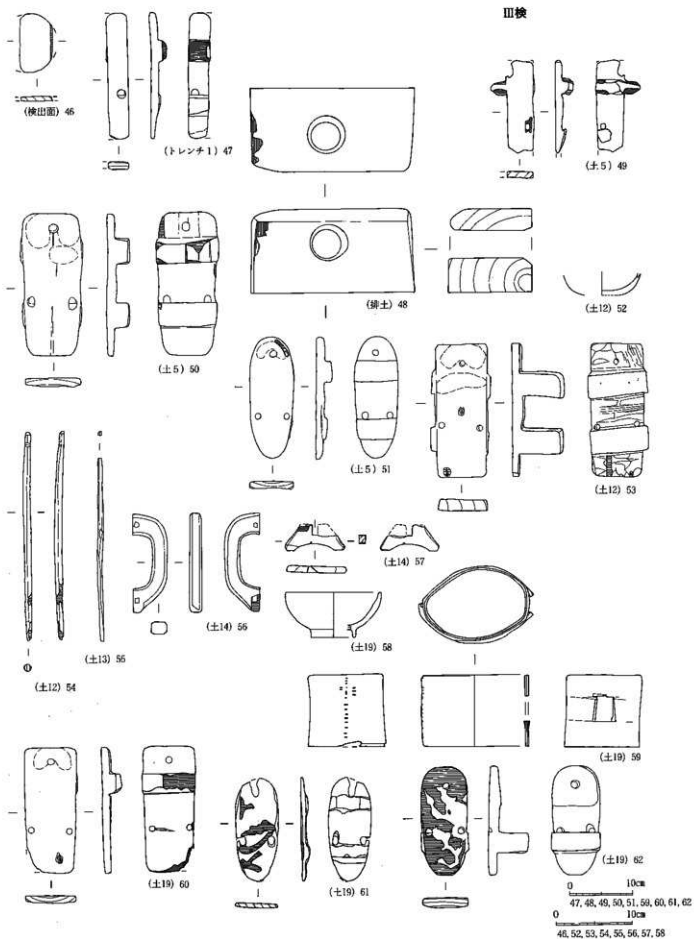
総計3点出土した。いずれも著しく破損しており、112・116は原形復元が非常に難しい状態である。59は、内面の側板接合部分に黒漆、外面には朱漆が塗られていた。



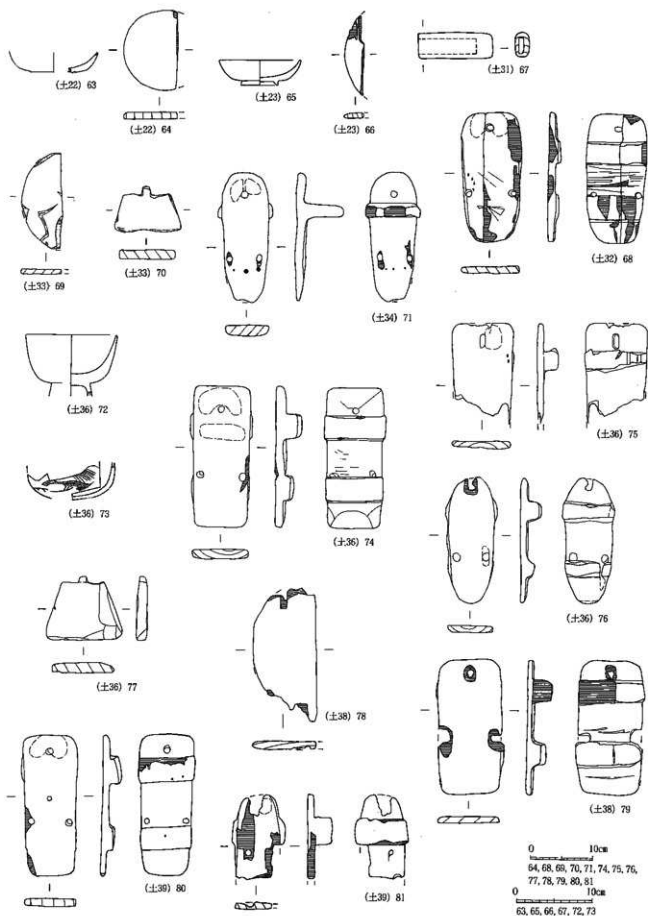
第28図 木製品(1)



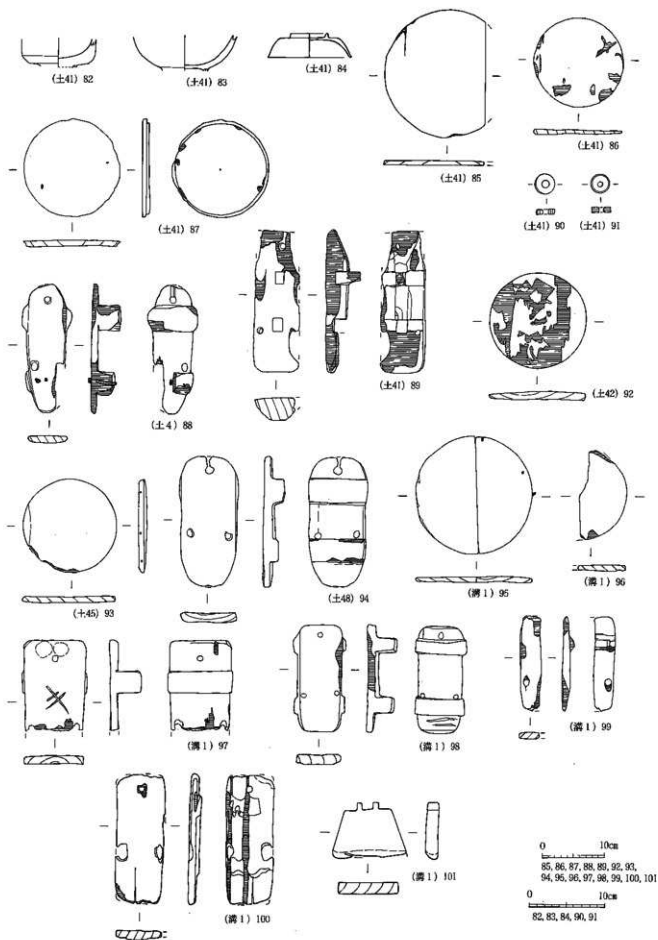
第29図 木製品(2)



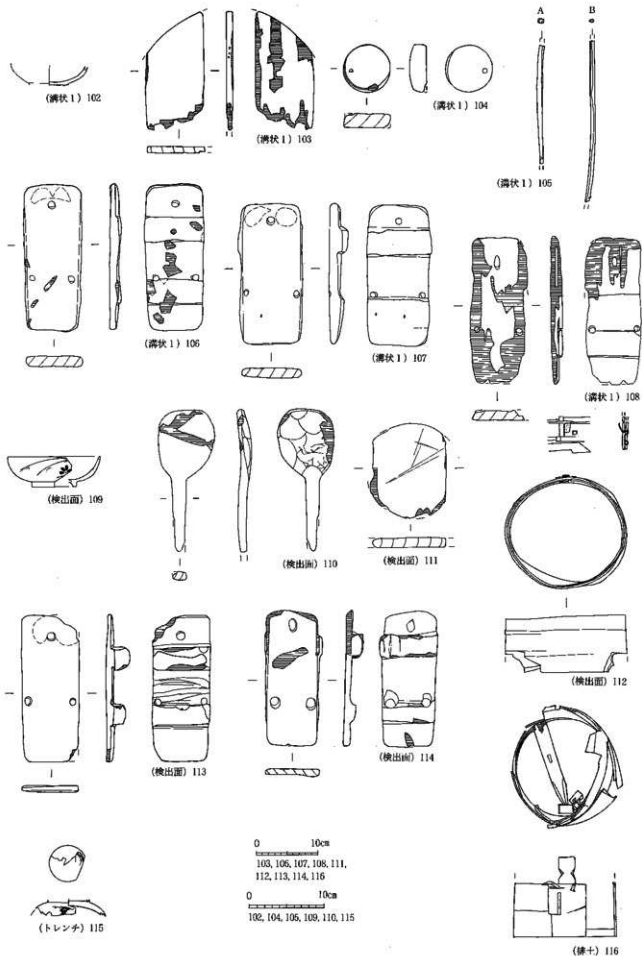
第30図 木製品(3)



第31图 木製品(4)



第32図 木製品(5)



第33図 木製品(6)

第2表 土器・陶磁器・土製品一覧表

No	検出地点	実測No	注記	類別	器形	寸法 (cm)			技術・文様・形制の特徴	胎土	焼成	鑑定制作年代	鑑定産地
						口径	底径	高さ					
1	1-1-12	2-2-1	2-2-065, 土44-066	磁器	皿	(8.6)			内面見込部に華文文、赤竹文、紫の目隠し蓋高台、口縁内面彫刻	灰	透明	18c	肥前
2	1-1-25	2-2-1	2-2-065	磁器	小瓶	(5.6)	(3.2)	4.2	外周に華文(御理文ほか)	白	透明	19c	瀬戸・美濃
3	1-1-8	2-8-1	2-8-056, 137-068	磁器	蓋				コバルト灰、銅絵彩、蓋裏に竹組時の文字	白	透明	19c	瀬戸・美濃
4	1-1-11	2-11-1	2-11-059	陶磁	灯台受皿	3.0	3.9		立方形にV字状の切り込み1箇所あり	釉	緑	19c	瀬戸・美濃
5	1-1-12	2-12-2	2-12-060	磁器	皿	(9.1)	(4.3)	2.6	見込部に五弁花文、底面見込か	灰	透明	18c	肥前
6	1-1-12	2-12-1	2-12-060	陶磁	磁鉢	(10.0)				黄灰	緑	18c	瀬戸・美濃
7	1-1-15	2-15-2	2-15-065	陶磁	鉢	(6.9)	2.1	1.6	口縁端部に彫付書	黄灰	灰	19c	瀬戸・美濃
8	1-1-13	2-13-1	2-13-061	陶磁	蓋鉢	(7.0)				灰	透明	19c	瀬戸・美濃
9	1-1-18	2-18-63	2-18-062, 063	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
10	1-1-18	2-18-54	2-18-062	磁器	小杯	(7.2)	(2.5)	3.1	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
11	1-1-18	2-18-52	2-18-062	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
12	1-1-18	2-18-55	2-18-062, 063	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
13	1-1-18	2-18-47	2-18-062	磁器	小杯	(6.2)	(2.5)	3.3	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
14	1-1-18	2-18-49	2-18-062, 063, 119-007	磁器	小杯	(6.4)	(2.8)	3.3	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
15	1-1-18	2-18-48	2-18-062	磁器	小杯	(5.8)	(3.0)	4.4	コバルト灰、竹・華文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
16	1-1-18	2-18-51	2-18-062	磁器	小杯	5.7	3.1	3.6	コバルト灰、斐斐文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
17	1-1-18	2-18-43	2-18-062, 119-007	磁器	小杯	5.9	3.3	5.0	帯打紋/外面華文彫刻・底面によぐま	白	透明	19c	瀬戸・美濃
18	1-1-18	2-18-57	2-18-062	磁器	小杯	(6.6)	2.7	4.1	胴部中央に灰黒・緑色の雲文、底彫刻あり	白	透明	19c	瀬戸・美濃
19	1-1-18	2-18-59	2-18-062	磁器	小杯	8.5			川文	白	透明	19c	肥前
20	1-1-18	2-18-58	2-18-062	磁器	碗	(10.9)	(3.4)	4.6	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
21	1-1-18	2-18-41	2-18-062	磁器	碗	10.2	3.4	4.2	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
22	1-1-18	2-18-45	2-18-062	磁器	碗	(11.4)	(3.6)	4.3	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
23	1-1-18	2-18-46	2-18-062	磁器	碗	(11.6)	(3.6)	4.5	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
24	1-1-18	2-18-60	2-18-062	磁器	碗	(12.2)	(3.9)	5.1	外周青磁釉に上繪(赤)、紅黒に紫水文、高台内に長尾黒線	白	透明	19c	瀬戸・美濃
25	1-1-18	2-18-42	2-18-062	磁器	碗	11.8	3.7	5.2	外周青磁釉に上繪(赤・緑)、紅黒に紫水文	白	青磁・透明	19c	瀬戸・美濃
26	1-1-18	2-18-58	2-18-062	磁器	碗	(10.4)	3.5	4.2	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
27	1-1-18	2-18-37	2-18-062	磁器	碗	8.7	(3.3)	3.9	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
28	1-1-18	2-18-35	2-18-062	磁器	碗	(9.9)	3.2	4.6	コバルト灰、上繪(緑)	白	透明	19c	瀬戸・美濃
29	1-1-18	2-18-40	2-18-062, 063	磁器	碗	11.6	3.8	4.9	コバルト灰、間絵彩、蓋の子に松文・扇に鶴亀文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
30	1-1-18	2-18-36	2-18-062	磁器	碗	(11.8)	(4.0)	4.7	コバルト灰、間絵彩、蓋の子に松文・扇に鶴亀文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
31	1-1-18	2-18-54	2-18-062	磁器	碗	(10.6)	(4.1)	5.1	花文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
32	1-1-18	2-18-44	2-18-062	磁器	碗	12.1	3.6	5.0	口縁内面書文、見込に華文、外面華文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
33	1-1-18	2-18-62	2-18-062	陶磁	碗	(11.0)				灰	緑	19c	瀬戸・美濃
34	1-1-18	2-18-7	2-18-063	陶磁	皿		(4.0)			灰	緑	19c	瀬戸・美濃
35	1-1-18	2-18-56	2-18-062, 119	磁器	皿	(12.8)	8.9	3.4	紫の目隠し高台、内面華文文、外面華文	白	透明	18c後~19c前	肥前
36	1-1-18	2-18-12	2-18-062	磁器	皿	(9.7)	(4.6)	2.0	帯打紋、華文彫刻	白	透明	19c	瀬戸・美濃
37	1-1-18	2-18-11	2-18-062	磁器	皿	(8.5)	(5.6)	2.1		白	透明	19c	瀬戸・美濃
38	1-1-18	2-18-10	2-18-062	磁器	皿	(9.8)	(6.0)	2.6		白	透明	19c	瀬戸・美濃
39	1-1-18	2-18-9	2-18-062, 書体1-104	陶磁	皿	(8.8)	(6.2)	2.1		白	透明	19c	瀬戸・美濃
40	1-1-18	2-18-8	2-18-062	陶磁	皿	(10.0)	(6.8)	2.0		白	透明	19c	瀬戸・美濃
41	1-1-18	2-18-50	2-18-062, 063	磁器	鉢	(18.4)			コバルト灰、口縁~胴部内面彫刻あり、その他の胎付は手書	白	透明	19c	瀬戸・美濃
42	1-1-18	2-18-39	2-18-062	陶磁	鉢	11.3	5.8	5.1	口縁端部上面に松竹鶴文、底面に松文、外面華文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
43	1-1-18	2-18-61	2-18-062	陶磁	鉢	11.4	6.2	8.4	底面に華文、見込みに松文、外面華文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
44	1-1-18	2-18-5	2-18-063	陶磁	鉢鉢	(30.0)			胴部彫刻、観鈴痕あり	黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
45	1-1-18	2-18-4	2-18-062	陶磁	鉢鉢	(36.0)				黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
46	1-1-18	2-18-1	2-18-062, 063	陶磁	鉢鉢	(28.8)				黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
47	1-1-18	2-18-2	2-18-062	陶磁	鉢鉢	(10.4)			被焼成あり、高台彫刻	黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
48	1-1-18	2-18-5	2-18-062	陶磁	鉢鉢	(12.8)				黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
49	1-1-18	2-18-6	2-18-063	陶磁	鉢鉢	(7.6)			高台半円形の透かし4単位、底面彫刻、見込みにトナリ痕あり	黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
50	1-1-18	2-18-63	2-18-062	陶磁	急須				胎子部彫刻あり、蓋・弁・煎茶文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
51	1-1-18	2-18-16	2-18-062	土器	埴輪	(12.2)	1.3		埴輪	白	透明	19c	瀬戸・美濃
52	1-1-19	2-19-1	2-19-007, 008	磁器	小杯	6.9	2.6	2.8	金彩七輪あり	白	透明	19c	瀬戸・美濃
53	1-1-19	2-19-8	2-19-007	磁器	小杯	(7.2)	(3.4)	3.6	コバルト灰	白	透明	19c	瀬戸・美濃
54	1-1-19	2-19-3	2-19-007, 064	磁器	小杯	(5.9)	(6.5)	2.0		白	透明	19c	瀬戸・美濃
55	1-1-19	2-19-7	2-19-007	陶磁	蓋鉢	(31.0)				黄灰	緑	17c	瀬戸・美濃
56	1-1-19	2-19-4	2-19-007	陶磁	蓋鉢	(11.0)				黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
57	1-1-19	2-19-9	2-19-064	陶磁	蓋鉢	(5.9)			胎部穿孔、体部外面に貝貝彫刻、一部鉄釉あり	白	灰黒・透明・鉄	19c	瀬戸・美濃
58	1-1-19	2-19-2	2-19-007, 064	陶磁	蓋鉢	3.0				白	透明	19c	瀬戸・美濃
59	1-1-20	2-20-11	2-20-073	陶磁	鉢	(11.8)			高台彫刻	黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
60	1-1-20	2-20-10	2-20-074, 071	陶磁	鉢鉢	13.4				黄灰	緑	19c	瀬戸・美濃
61	1-1-20	2-20-1	2-20-074	陶磁	碗	(17.7)				灰	緑	19c	瀬戸・美濃
62	1-1-21	2-21-1	2-21-078, T1	磁器	碗	(7.8)			外面書文、口縁内面に西方華文	白	透明	18c	肥前

No	機	出土地点	実測%	注	類別	器形	寸法 (cm)			技法・文様・形制の特徴	胎土	胎調	鑑定製作年代	鑑定産地		
							口径	底径	高さ							
83	1	-421	±21-2	±21-015	陶器	花瓶	6.6			厚唇外唇子文様	灰白	灰	18c後	瀬戸・美濃		
84	1	-422	±22-7	±22-075	陶器	甕	(11.7)	(3.7)	4.8	厚唇罎り(甕の子文・松文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
85	1	-422	±22-8	±22-075	陶器	甕	(11.7)	(3.7)	4.7	厚唇罎り(甕の子文・松文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
86	1	-422	±22-6	±22-075	陶器	甕			3.5	厚唇罎り(花文・青黄紋)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
87	1	-422	±22-1	±22-075	±23-076	陶器	甕	(11.6)	(3.6)	4.6	厚唇罎り(甕の子文・内区罎中に松文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
88	1	-422	±22-4	±22-075		陶器	小甕	(7.9)	(3.3)	3.9	厚唇転写(草花文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
89	1	-422	±22-2	±22-075	±23-076	陶器	小甕		(4.6)	厚唇罎り(以蓮部に松竹梅文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
90	1	-422	±22-11	±22-075	±23-076	陶器	段底の甕	11.6		2.9	丸区部に松・竹・梅・四方縁文(中に花字文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
71	1	-423	±23-3	±23-075	目録	陶器	皿	(11.0)	(5.8)	1.9	厚唇罎り(松竹梅に花文・青黄紋文・七宝羅文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
72	1	-423	±23-5	±23-075	1脚-161	陶器	皿	9.2		4.8	厚唇転写(松竹梅)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
73	1	-422	±22-6	±22-075		陶器	段底	(9.5)	(8.4)	2.8	厚唇転写(草花文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
74	1	-422	±22-10	±22-075	±23-019, 076	陶器	飯取杓	(5.0)	(5.6)	9.4	厚唇転写(輪・鳥申文)・口縁部厚唇外区文、体部下層透孔文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
75	1	-423	±23-4	±23-019, 076	陶器	小杯	(7.2)	3.7	4.3	コバルト灰濁、厚唇転写(輪・唐草文)、高台外面透孔文、底面に「伊高印製」	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
76	1	-423	±23-2	±23-076	±23-075	陶器	小杯	7.3		2.6	2.9	内底金彩(大平が刻みして御影の)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃
77	1	-423	±23-3	±23-075, 019	陶器	小杯	(7.6)	(3.1)	3.6	内面一部に厚唇罎り、厚唇罎り(青黄紋文・唐人)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃		
78	1	-423	±23-5	±23-075		陶器	小甕	(8.9)	(2.9)	4.0	内面・体部下に透孔あり	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
79	1	-423	±23-1	±23-076		陶器	小甕	(10.1)	(5.1)	4.8	内面・体部下に透孔あり	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
80	1	-423	±23-1	±23-077		陶器	金子	4.2		3.8		白	透明	18c～19c	不明	
81	1	-426	±26-1	±26-078	瓦質土器	火鉢	(29.2)			体部内外面に嵌状工具ナゲ	灰	一	不明	不明		
82	1	-427	±27-3	±27-082	陶器	甕	11.1		3.8	5.2	外面・口縁部に青黄紋文、口縁端部厚唇ダグミ、底面「東家軒製」	灰白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
83	1	-427	±27-2	±27-082, 162	陶器	甕	11.0		2.9	5.0	外面・口縁部に長片紋、内面に灰濁	灰白	基・灰白・透明	18c	瀬戸・美濃	
84	1	-427	±27-4	±27-082	陶器	甕	14.1		7.2	5.9	外面・口縁部に長片紋、内面に灰濁	灰白	基・灰白・透明	18c	瀬戸・美濃	
85	1	-427	±27-0	±27-080	陶器	不明			2.5	5.9	厚唇罎り、内面に灰濁	灰濁	一	不明	不明	
86	1	-432	±32-4	±32-084, 085	陶器	甕	11.5		4.6	5.7	コバルト灰濁、虎走り	白	透明	18c前	瀬戸・美濃	
87	1	-432	±32-3	±32-085	陶器	甕	(13.8)				厚唇輪にうの上吻、内面天井部に横輪	灰濁	基濁	18c前	瀬戸・美濃	
88	1	-432	±32-5	±32-085	陶器	甕					口縁端部内唇、見込部に山水・松竹梅文様	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
89	1	-432	±32-1	±32-085	瓦質土器	鉢鉢	(25.0)	(20.0)		18.2		陶	一	18c後	不明	
90	1	-432	±32-2	±32-085	瓦質土器	火鉢	(18.8)					陶	一	不明	不明	
91	1	-436	±36-4	±36-086, 087, ±41-049	陶器	片口鉢	(8.3)			3.0	鉄絵、56・36の書き	灰	一	18c	京・伊奈	
92	1	-436	±36-7	±36-086, 087	陶器	鉢	(12.0)	(7.6)		4.5	水刷写、口縁端部厚唇しるし付成	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
93	1	-436	±36-2	±36-081	陶器	片口鉢	(10.8)			4.8	5.7	鉄灰	鉄	18c	瀬戸・美濃	
94	1	-436	±36-1	±36-081, 086, 087	陶器	鉢	20.0	(13.4)		11.5		磁灰～灰濁	灰	18c	瀬戸・美濃	
95	1	-436	±36-5	±36-086	陶器	土瓶	(6.8)				鉄絵、8等と同一形体	灰	一	18c	京・伊奈	
96	1	-436	±36-6	±36-081, 086	陶器	土瓶	(8.0)				鉄絵、56と同一形体	灰	一	18c	京・伊奈	
97	1	-436	±36-3	±36-087, 086	陶器	鉢子	(10.2)	(7.4)				灰・基・灰濁	18c	瀬戸・美濃		
98	1	-437	±37-2	±37-088	陶器	甕	(9.5)	(3.9)		5.1	松文、内面見込部に轉字文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
99	1	-437	±37-1	±37-088	陶器	鉢	(8.0)					陶	鉄	不明	不明	
100	1	-441	±41-10	±41-028	陶器	煎茶甕	(5.8)	(3.1)		4.7	草花文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
101	1	-441	±41-11	±41-049	陶器	煎茶甕	(5.0)	(3.1)		4.8	草花文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
102	1	-441	±41-13	±41-049, 049	陶器	小杯	6.3		2.4	4.9	コバルト灰濁、厚唇に縁方向の丸ノと剛字(8単位)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
103	1	-441	±41-15	±41-049	陶器	小杯	7.0		3.5	3.3	コバルト灰濁、厚唇罎り	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
104	1	-441	±41-20	±41-049, 049, ±13-018	陶器	小杯	4.9		3.3	5.1	コバルト灰濁、草木文、底面筋あり	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
105	1	-441	±41-19	±41-045	陶器	小杯	(5.4)				厚・横線文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
106	1	-441	±41-21	±41-027	陶器	小杯	(5.6)		2.8	5.0	コバルト灰濁、横線・龍文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
107	1	-441	±41-18	±41-029, 046	陶器	小杯	(6.1)		4.0	4.0	厚唇・玉鬚文・長耳輪・筋	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
108	1	-441	±41-24	±41-027, 046	陶器	甕	10.5		3.7	5.1	外区文様(3区間に松・梅・山)、口縁少部黒文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
109	1	-441	±41-20	±41-029, 037, 049	陶器	甕	10.4		5.1	3.6	コバルト灰濁(手書き)、松文、口縁内面横線文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
110	1	-441	±41-22	±41-033	陶器	甕	(10.1)	(3.3)		5.1	コバルト灰濁、草文、口縁内面横線文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
111	1	-441	±41-5	±41-044	陶器	甕	(9.1)		3.4	5.3	灰濁輪のち口縁部に長濁	濃灰	灰・灰濁	18c	瀬戸・美濃	
112	1	-441	±41-23	±41-028	陶器	甕	3.0		3.3	2.9	コバルト灰濁、花文、口縁内面横線文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
113	1	-441	±41-13	±41-032	陶器	金盃の蓋	(5.2)			1.7	縁部に横文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
114	1	-441	±41-21	±41-033	陶器	甕	(7.2)		3.9	1.9	厚唇転写(山水文)	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
115	1	-441	±41-19	±41-042, ±44-063	陶器	甕	(10.5)		7.2	4.5	厚唇罎り(横線文) 透影、見込部に松竹梅文、厚唇罎ノ目形部透孔	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
116	1	-441	±41-27	±41-042, 048, 049	陶器	甕	(6.3)		5.2	2.7	厚唇罎り、内面見込部に横線文、長耳ダグミ	白	透明	18c中	瀬戸・美濃	
117	1	-441	±41-14	±41-049	陶器	甕	(10.7)	(5.7)		1.9	コバルト灰濁、草花文	白	透明	18c後	瀬戸・美濃	
118	1	-441	±41-4	±41-035	陶器	大皿	(10.6)	(5.8)		2.6		白	透明	18c	瀬戸・美濃	
119	1	-441	±41-26	±41-041, 040	陶器	大皿	(31.2)		17.4	8.4	透影・横線透影、底面「大明年製」、ハリ支え4箇所、外面に唐草文、内面に横文	白	透明	18c中	不明	
120	1	-441	±41-29	±41-033, 034, 039	陶器	火鉢	(14.4)				口縁部厚唇に厚唇罎り、ハリ支え、底面「大明成化年製」筋、鉄線あり	白	透明	18c中	不明	
121	1	-441	±41-26	±41-038, 040	陶器	火鉢	(14.4)				厚唇罎り、内面に灰濁	灰	一	18c	瀬戸・美濃	
122	1	-441	±41-3	±41-024	陶器	金子	(5.4)		5.0	1.9	口縁端部～厚唇部縁	灰	一	18c	瀬戸・美濃	
123	1	-441	±41-2	±41-092	陶器	煎茶甕	3.8		3.8	2.3		灰	一	18c	瀬戸・美濃	
124	1	-441	±41-1	±41-049	土器	土管	(14.4)			1.8	穿孔あり	陶	一	不明	不明	

No	棟	出土地点	実測No	注記	類別	器形	径差 (cm)			技法・文様・形類の特徴	胎土	釉調	鑑定制作年代	推定産地
							口径	底径	胎高					
125	1	溝伏1	溝伏-11	1條-162	磁器	壺	10.2	5.5	5.7	富士山模様	白	透明	19c中	瀬戸・美濃
126	1	溝伏1	溝伏-12	溝伏-104	磁器	壺	(10.2)	3.5	5.7	富士山模様	白	透明	18c中	瀬戸・美濃
127	1	溝伏1	溝伏-16	溝伏-107	磁器	壺			(8.0)		白	透明	18c	肥前
128	1	溝伏1	溝伏-14	溝伏-104, 106	磁器	壺	7.3	4.3	6.2	口縁内面文、外面の文に松文	白	透明	19c中	肥前
129	1	溝伏1	溝伏-15	溝伏-106	磁器	壺			(4.8)	腰彫製あり	白	透明	18c	肥前
130	1	溝伏1	溝伏-4	溝伏-107	陶器	壺			(7.5)		灰	透明	18c	瀬戸・美濃
131	1	溝伏1	溝伏-3	溝伏-107	陶器	壺			(3.9)		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
132	1	溝伏1	溝伏-6	溝伏-105	陶器	壺			(3.8)		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
133	1	溝伏1	溝伏-13	溝伏-106	磁器	鉢	(14.7)	(8.7)	4.8	彫り文、梅文、見込等に縁飾(根取タテ)、底裏面の目隠形高台	白	透明	19c前	肥前
134	1	溝伏1	溝伏-17	溝伏-105	磁器	鉢			(10.5)	松文、口縁下に菊文、内面は口縁部以外は縁飾	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
135	1	溝伏1	溝伏-8	溝伏-107	陶器	壺			(11.0)		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
136	1	溝伏1	溝伏-10	溝伏-107	陶器	壺			(10.2)		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
137	1	溝伏1	溝伏-2	溝伏-106	陶器	壺			(10.6)	底面に墨書あり	灰	透明	19c	不明
138	1	溝伏1	溝伏-1	溝伏-100, 1号-162	陶器	壺	(10.6)	(7.4)		土18-6と同一様式か? 底彫り込み高台4単位	焼灰	透明	19c	不明
139	1	溝伏1	溝伏-1	溝伏-107	陶器	壺			(1.6)		焼灰	透明	19c	京・伊奈
140	1	溝伏2	溝伏-2	溝伏-108	陶器	壺			5.2	底裏墨書あり	灰	透明	19c前	瀬戸・美濃
141	1	溝伏	溝伏-18	1條-181	磁器	壺			(4.0)	コバルト風漬	白	透明	19c	瀬戸・美濃
142	1	溝伏	溝伏-20	1條-168, 171	磁器	壺	7.9	3.4	4.9		白	透明	19c	肥前
143	1	溝伏	溝伏-25	1條-161	磁器	小杯				コバルト風漬、竹文、底面に区画文字	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
144	1	溝伏	溝伏-9	1條-163	磁器	紅蓋口	(6.0)	(1.8)	1.5	彫り成形、外面縁部有印刷	白	透明	19c	肥前
145	1	溝伏	溝伏-3	1條-169	陶器	壺			3.6		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
146	1	溝伏	溝伏-4	1條-163	陶器	壺			4.0		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
147	1	溝伏	溝伏-23	1條-161	磁器	壺				天竺内面に五弁花(コニシヤク印刷)、口縁内面に縁型文、つまみ部縁に透孔文	白	透明	19c後	肥前
148	1	溝伏	溝伏-11	1條-165	磁器	壺	(10.0)	つまみ4.8	3.5	天竺外周に縁飾、口縁内面四角透文、天竺柄に面五弁花文、天竺柄外周縁飾文	灰	透明	18c	肥前
149	1	溝伏	溝伏-10	1條-161	陶器	壺			10.8		灰	透明	18c	京・伊奈
150	1	溝伏	溝伏-22	1條-163	磁器	壺				糸紙作り、桜・青海波文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
151	1	溝伏	溝伏-6	1條-169	陶器	壺			(5.4)	松文	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
152	1	溝伏	溝伏-7	1條-169	磁器	壺	(9.6)	(5.2)	2.1	鷹文印刷	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
153	1	溝伏	溝伏-2	1條-169	陶器	壺	(8.0)	(3.4)	1.9	彫り文	焼灰	白	18c中	肥前
154	1	溝伏	溝伏-19	1條-162	磁器	壺			(7.3)	区画文、蛇・目隠形高台	焼灰	白	19c	肥前
155	1	溝伏	溝伏-34	1條-171	磁器	壺				彫り成形、山水文、腰部に6条の紋飾、口縁形状方形に縁花	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
156	1	溝伏	溝伏-17	1條-161	陶器	鉢	(10.5)	(4.3)	4.9	上段(赤・青)	白	透明	19c前	肥前
157	1	溝伏	溝伏-9	1條-169	陶器	壺			(15.6)		灰	透明	19c	瀬戸・美濃
158	1	溝伏	溝伏-26	1條-171	陶器	片Li				裏面は縁飾、胴部縁飾、外周下半へ彫り縁飾	灰	透明	19c	京・伊奈
159	1	溝伏	溝伏-11	1條-169	陶器	行子壺	(11.7)	(7.3)	5.9	うのぶねと松文	灰	透明	18c後~19c初	京・伊奈
160	1	溝伏	溝伏-1	1條-165	陶器	壺				口縁下に彫りあり	灰	透明	19c前	肥前
161	1	溝伏	溝伏-5	1條-169	陶器	壺			(5.6)	ミザギの文型	灰	透明	不明	不明
162	1	溝西1	溝西T-7	溝西T-132	磁器	小杯	6.3	2.6	3.8	底面に製図の跡があるが、塗んで判読不可	白	透明	19c	瀬戸・美濃
163	1	溝西1	溝西T-14	溝西T-132	磁器	小杯				底に金太郎、上段(赤・黄・黒・灰)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
164	1	溝西1	溝西T-6	溝西T-132	磁器	小杯	(7.6)	(3.2)	4.1	上段(赤・青)(割落して一部の残存)	灰	白	18c	肥前
165	1	溝西1	溝西T-12	溝西T-132	磁器	壺	(8.0)			水染染に菊文	白	透明	18c後~19c初	肥前
166	1	溝西1	溝西T-17	溝西T-132	磁器	壺				内面見込等に五弁花文(コニシヤク印刷)	灰	透明	19c後	肥前
167	1	溝西1	溝西T-2	溝西T-132	陶器	壺			(15.9)	体部外周からの押注箇所見出し	灰	透明	19c	瀬戸・美濃
168	1	溝西1	溝西T-1	溝西T-132	陶器	小壺	(6.7)	(2.8)	3.6		灰	透明	19c後	瀬戸・美濃
169	1	溝西1	溝西T-16	試案-191	磁器	壺				コバルト風漬	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
170	1	溝西1	溝西T-13	溝西T-132	磁器	壺				草花文、内面口縁部、胴文、天竺柄に菊文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
171	1	溝西1	溝西T-3	溝西T-132	陶器	壺				天竺柄外周白磁による彫り目	灰	透明	19c後	肥前
172	1	溝西1	溝西T-10	溝西T-132	磁器	壺			(8.0)	彫り(赤・青・黒)彫、高台外縁に墨線	白	透明	19c	瀬戸・美濃
173	1	溝西1	溝西T-5	溝西T-132	磁器	壺	(12.2)	(7.9)	2.3	内外面に口縁部(区画)	灰	透明	19c	瀬戸・美濃
174	1	溝西1	溝西T-4	溝西T-132	陶器	鉢	14.4	4.9	8.0	見込部にトチン草あり	灰	透明	18c後~19c前	瀬戸・美濃
175	1	溝西1	溝西T-11	溝西T-132	陶器	壺			2.8	体部外縁に松文あり	灰	透明	19c中	瀬戸・美濃
176	1	溝西1	溝西T-15	溝西T-132	磁器	人形				彫り、彫り成形、箸置きor箸置きか?	白	透明	不明	肥前
177	1	溝西1	溝西T-8	溝西T-132	土器	壺			9.6	上段縁飾により割落	褐色	透明	不明	不明
178	1	溝西1	溝西T-9	溝西T-132	土器	壺			(9.6)	内面見込部に松文	褐色	透明	不明	不明
179	1	溝西1	溝西T-1	溝西T-132	磁器	壺	(13.5)			口縁に面縁飾、天竺縁飾	灰	透明	19c前	瀬戸・美濃
180	1	溝西1	溝西T-7	溝西T-132	陶器	壺	7.9	3.9	6.6	縁飾	灰	透明	18c後~19c前	瀬戸・美濃
181	1	溝西1	溝西T-7	溝西T-132	陶器	壺	(9.2)	3.7	5.6	縁飾	灰	透明	18c後~19c前	瀬戸・美濃
182	1	溝西1	溝西T-15	溝西T-132	陶器	壺	(9.6)			体部に外面からの押注箇所あり	灰	透明	18c	京・伊奈
183	1	溝西1	溝西T-15	溝西T-132	陶器	壺			(4.8)		灰	透明	18c	瀬戸・美濃
184	1	溝西1	溝西T-16	溝西T-132	陶器	壺			(4.6)	縁部~底部縁飾	灰	透明	18c	瀬戸・美濃
185	1	溝西1	溝西T-15	溝西T-132	磁器	壺			(12.6)		白	透明	18c	肥前
186	1	溝西1	溝西T-17	溝西T-132	磁器	壺			(6.2)	立軸形、くびれ部に彫り文、高台縁部、波文見出し	灰	透明	18c	肥前

№	検出地点	東経①	注記	類別	器形	寸法 (mm)		技法・文様・形質の特徴	胎土	胎・顔	推定制作年代	推定産地	
						口径	高さ						
187	Ⅱ-25	±25-023		土器	皿	25.0	(4.8)	2.1	陶	灰	不明	古墳産	
188	Ⅱ-27	±27-1	127-027, 156-081	土器	皿	18.0	(15.0)	0	陶	灰	18c	瀬戸・美濃	
189	Ⅱ-29	±29-1	129-021	磁器	碗	(13.9)		2.8	濃灰	透明	18c後~19c初	肥前	
190	Ⅱ-32	±32-044		磁器	碗		(7.8)		灰白	透明	18c末~19c初	肥前	
191	Ⅱ-32	±32-040		陶器	急須	5.0		1.8	灰白	透明	19c前	常滑	
192	Ⅱ-32	±32-042		土器	火鉢	(31.2)			陶	灰	不明	在地方	
193	Ⅱ-36	±36-049	±64-090	陶器	皿	24.0	4.5	2.0	濃灰	鉄	18c後~19c	瀬戸・美濃	
194	Ⅱ-37	±37-050	±44-056	陶器	碗	24.0	(4.0)		淡黄褐色	灰	18c	瀬戸・美濃	
195	Ⅱ-41	±41-063		陶器	皿	(6.2)			黄白色	灰白	17c	瀬戸・美濃	
196	Ⅱ-41	±41-066		陶器	急須				灰	灰	不明	不明	
197	Ⅱ-42	±42-059		磁器	碗	(4.8)			高台埋部施土、上縁(赤絵)	淡灰	18c前	肥前	
198	Ⅱ-42	±42-059		陶器	天目筒	(16.8)			内面見込部に施土(使用痕跡)、外面下半~底縁施土	淡灰	17c前	瀬戸・美濃	
199	Ⅱ-42	±42-059		陶器	皿	7.4			内外見込部(内面灰、外面黒絵)	淡灰	18c	瀬戸・美濃	
200	Ⅱ-44	±44-064		磁器	心杯	1.9			蓮華文	透明	18c後	肥前	
201	Ⅱ-44	±44-064		磁器	碗	(6.8)			蓮華文	灰白	18c	肥前	
202	Ⅱ-44	±44-063		陶器	碗	5.1				淡灰	18c~19c	瀬戸・美濃	
203	Ⅱ-44	±44-063		陶器	急須	(4.9)				淡灰	18c~19c	瀬戸・美濃	
204	Ⅱ-44	±44-065		磁器	蓋	φ24.3			外面灰文、内面天井部に施文	灰白	透明	18c	肥前
205	Ⅱ-44	±44-10		磁器	皿	(11.5)			施彫彫文あり、蓋付埋部砂付蓋、蓋裏ゼントナシ製品	灰白	透明	18c後	肥前
206	Ⅱ-44	±44-8		磁器	皿	(7.4)				灰白	青緑	18c	肥前
207	Ⅱ-44	±44-12	±44-063	陶器	皿	(5.1)			内面見込部に黒点施土(赤文)	灰白	18c中~後	瀬戸・美濃	
208	Ⅱ-44	±44-15	±44-064, Ⅱ線-384	陶器	皿	(5.5)			内面見込部に黒点施土(赤文)	黄白	18c中~後	瀬戸・美濃	
209	Ⅱ-44	±44-1	±44-063	陶器	皿	(6.1)	(3.7)	1.4	陶器埋部付蓋	淡黄灰	19c前	瀬戸・美濃	
210	Ⅱ-44	±44-14	±44-063, Ⅱ線-383, 384	磁器	鉢				外面見込部・内面施付、内面(帆船・車花・鳥)、絶ノ目門部裏面、高台部に施青あり	淡灰白	青緑・透明	18c後	肥前
211	Ⅱ-44	±44-11	±44-063, 064, 065	陶器	鉢鉢	27.1	5.8	13.8	彫形ゆがみ大	陶	灰・灰石	不明	不明
212	Ⅱ-44	±44-6	±44-063	陶器	皿	(11.4)				淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
213	Ⅱ-44	±44-7	±44-064	瓦葺土器	火鉢	(16.0)			外面・体面中位に回転印彫、口縁部に丁寧にミガキ、下半ケズリ	陶	不明	不明	
214	Ⅱ-44	±44-5	±44-064	陶器	碗		(7.0)			陶	18c~19c	不明	
215	Ⅱ-44	±44-4	±44-065	陶器	鉢		(7.5)		外面隆付蓋、蓋裏に脚部3単位か	淡灰	18c~19c	瀬戸・美濃	
216	Ⅱ-49	±49-2	±49-068	陶器	灯明受皿	(6.8)	(4.8)	1.7		陶	鉄	18c後~19c前	瀬戸・美濃
217	Ⅱ-49	±49-1	±49-068	陶器	鉢鉢	(13.6)	5.6	3.0		淡灰	鉄	18c後~19c前	瀬戸・美濃
218	Ⅱ-53	±53-1	±53-071	陶器	皿	(10.6)	(5.4)	1.9		灰白	透明	18c中	瀬戸・美濃
219	Ⅱ-53	±53-3	±53-073	陶器	新		3.8		内面見込部に空文(蓮華か動物)、底裏黒染文	灰白	17c前	瀬戸・美濃	
220	Ⅱ-54	±54-1	±54-075	陶器	不明	(1.5)			鉄絵、体面指押成形	灰白	透明	17c前か	瀬戸・美濃
221	Ⅱ-56	±56-6	±56-079	陶器	碗	8.0	3.2	6.0	陶器染付、底裏施文	淡黄白	灰	18c後~19c前	瀬戸・美濃
222	Ⅱ-56	±56-5	±56-080	陶器	碗	10.6	4.0	6.8	鉄絵	淡黄白	灰	18c後	瀬戸・美濃
223	Ⅱ-56	±56-1	±56-079	陶器	碗	(5.8)			口縁部に呉須	淡黄灰	灰・呉須	18c初期	瀬戸・美濃
224	Ⅱ-56	±56-2	±56-081	陶器	碗	(12.4)				灰	鉄	18c初期	古・信濃
225	Ⅱ-56	±56-4	±56-077	陶器	灯明受皿	3.5	4.0	1.5	かみり種(受け台)に穿孔箇所	淡黄灰	鉄	18c末~19c前	瀬戸・美濃
226	Ⅱ-59	±59-1	±59-082	磁器	碗	(6.0)			黄文	灰	透明	18c	肥前
227	Ⅱ-59	±59-1	±59-083	陶器	鉢	(31.2)			白灰の敷土	赤黄	灰	17c後	肥前
228	Ⅱ-59	±59-1	±59-084	陶器	碗	(4.2)			内面見込部に鉄絵	淡黄白	灰	18c後	古・信濃
229	Ⅱ-59	±59-5	±59-089	陶器	碗	(11.0)			天井部外面に鉄絵	灰白	灰	18c後	古・信濃
230	Ⅱ-59	±59-1	±59-087	陶器	碗	4.3				淡灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
231	Ⅱ-78	±78-2	±78-106	磁器	碗	(6.4)				灰白	透明	18c後	肥前
232	Ⅱ-78	±78-1	±78-118	磁器	碗	(6.5)				灰白	透明	18c後	肥前
233	Ⅱ-79	±79-4	±79-121	陶器	碗	(13.2)			体面中位に3本の沈線	陶	灰	18c後~19c前	瀬戸・美濃
234	Ⅱ-79	±79-2	±79-130	陶器	碗	(11.4)				灰黄	灰	18c後~19c前	瀬戸・美濃
235	Ⅱ-79	±79-6	±79-132	陶器	碗	(6.3)	3.6	6.0	高台埋部以外は全面施土、体面中位に4本の沈線	陶	鉄	18c後	瀬戸・美濃
236	Ⅱ-79	±79-7	±79-133, 134, 142	陶器	皿	12.4	4.7	7.3	外面へラ工具により凹線あり、器脚の下端部に凹線、体面中位に4本の沈線	淡灰	鮮・灰	18c後	瀬戸・美濃
237	Ⅱ-79	±79-1	±79-135, 138	陶器	皿	11.7	5.1	2.4		淡灰	鮮	18c末~19c初	古・信濃
238	Ⅱ-79	±79-8	±79-142	土器	皿	(12.3)	(6.6)	2.8	帯付蓋	灰白	透明	不明	不明
239	Ⅱ-79	±79-3	±79-128, 141	陶器	小瓶	4.0			高台部~底縁施土	灰白	灰	18c後~19c前	瀬戸・美濃
240	Ⅱ-79	±79-5	±79-113	陶器	高瓶	(6.9)				灰	透明	18c末~19c初	古・信濃
241	Ⅱ-88	±88-1	±88-149, 150	瓦葺土器	火約し機	(14.6)				灰	1	不明	不明
242	Ⅱ-89	±89-1	±89-151	陶器	碗	(7.6)		3.3		淡灰白	鮮緑	不明	不明
243	Ⅱ-91	±91-3	±91-152, 153, 155, 156	磁器	碗				黄・黄文文、蓮華絵あり	白	透明	18c後~19c前	肥前
244	Ⅱ-91	±91-2	±91-156	磁器	碗	(11.3)			花文	白	透明	18c	肥前
245	Ⅱ-91	±91-1	±91-154	磁器	碗	(3.1)				淡灰	透明	17c後~18c前	肥前
246	Ⅱ-98	±98-3	±98-164, 156-081	陶器	皿				ロウロ彫形後裏面に彫成形彫、彫底彫り(花文)、外面に施黒文	白	透明	18c後	肥前
247	Ⅱ-98	±98-2	±98-159	陶器	鉢鉢	(31.0)				灰白	灰	18c後	瀬戸・美濃
248	Ⅱ-98	±98-1	±98-162	陶器	鉢鉢	(11.2)				淡灰	鉄	18c	瀬戸・美濃

No.	横	出土地点	実測%	注記	類別	器形	径量 (cm)			技法・文様・形制の特徴	胎土	輪郭	推定制作年代	集定産地
							口徑	底径	高さ					
249	日	土-103	±103-1	±103-108	陶器	碗			浅底碗あり、高台端部以外全面施釉、高台端厚目録4個別	灰白	透明	17c後	肥前	
250	日	土-106	±106-1	±106-169	陶器	小瓶	(7.9)	(3.2)	4.4	灰白	透明	19c前	瀬戸・美濃	
251	日	土-109	±109-2	±109-171	陶器	碗		3.1	底面「罫」	灰白	透明	18c前	肥前	
252	日	土-109	±109-3	±109-171	陶器	碗		(3.2)	底面施あり、内面見込部五弁花文	灰白	透明	18c末～19c初	肥前	
253	日	土-109	±109-1	±109-171	陶器	皿	(6.8)	(6.8)	2.3	底の片岡彫草文、外周面模不明	灰白	透明	18c	肥前
254	日	土-111	±111-1	±111-174	陶器	仏飯鉢		5.5		灰白	透明	18c	瀬戸・美濃	
255	日	土-111	±111-2	±111-174	陶器	飯鉢	(8.2)	9.2	16.4	厚目録16本で単位(全13単位)	灰白	透明	17c前	瀬戸・美濃
256	日	土-115	±115-1	±115-179	陶器	燈籠				施釉(高平文・罫文)	灰	不透明	17c前	瀬戸・美濃
257	日	土-115	±115-2	±115-180	陶器	灯籠受皿		9.4		施釉	灰	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
258	日	土-116	±116-1	±116-181	陶器	小杯	(6.4)	(3.0)	3.6	外周面罫文	灰白	透明	19c前	肥前
259	日	土-117	±117-1	±117-184	陶器	茶碗				灰白	透明	18c前	瀬戸・美濃	
260	日	土-118	±118-1	±118-187	陶器	椀	(6.0)	6.0		灰白	透明	17c前	瀬戸・美濃	
261	日	土-125	±125-1	±125-195	陶器	茶碗		(5.2)		灰白	透明	18c前	肥前	
262	日	土-130	±130-3	±130-198	陶器	碗	(10.9)	4.2	7.3	高台端部のみ施釉	灰白	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃
263	日	土-130	±130-5	±130-205	陶器	土物	(8.8)	(6.2)	2.1	底面凹輪草文	施釉	灰	不明	在集定
264	日	土-130	±130-2	±130-204, 日録-365, 383	陶器	鉢	(16.2)	(2.8)	17.1	底面施あり	灰白	透明	18c初	瀬戸・美濃
265	日	土-130	±130-4	±130-203	瓦葺土師	鉢	(10.2)		6.3	外周面上下ナデ装飾のちミガキ、腰環字持ちヘラケズリ、脚部新付のものナデ	灰	灰	不明	不明
266	日	土-130	±130-6	±130-203, 203	陶器	茶碗			4.2		灰	18c	瀬戸・美濃	
267	日	土-130	±130-4	±130-175, 201	陶器	茶碗			7.2		灰・灰	18c後	瀬戸・美濃	
268	日	土-132	±132-1	±132-206, 日録-364	陶器	碗	(12.6)		14.0	底面・外周面掛け分け、耳縁端り付け	灰	透明	18c	瀬戸・美濃
269	日	土-137	±137-1	±137-213	陶器	鉢	(12.0)			灰	透明	18c	瀬戸・美濃	
270	日	土-137	±137-2	±137-216, 日録-383	陶器	椀	(12.0)			灰	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
271	日	土-137	±137-3	±137-218	陶器	椀	(11.0)			灰	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
272	日	土-養11	養11-1	養11-241	陶器	皿	(10.0)			灰	透明	19c前	瀬戸・美濃	
273	日	土-養13	養13-2	養13-244	陶器	皿	(12.9)	5.2	3.7	内面見込部に凸文、輪窓、縁部に反転流し掛け、底面施釉	灰	透明	17c前	瀬戸・美濃
274	日	土-養13	養13-3	養13-246	陶器	皿	(11.4)	(7.4)	1.6		灰	透明	17c前	瀬戸・美濃
275	日	土-養14	養14-1	養14-250	陶器	皿		9.0		灰	透明	18c後	瀬戸・美濃	
276	日	土-右11	右11-1	右11-310	陶器	椀	(5.6)			灰	透明	17c前	瀬戸・美濃	
277	日	土-右11	右11-2	右11-310	陶器	椀		(5.6)		内面の窪目は使用により磨滅	灰	透明	不明	瀬戸・美濃
278	日	土-福1	福1-1	福1-290	陶器	碗		(5.0)		灰	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
279	日	土-福2	福2-20	福2-372, 375, 378	陶器	碗		(5.9)		折枝梅文、雲在見草か 加賀文、雲在見草か	灰白	透明	17c前	肥前
280	日	土-福2	福2-7	福2-382	陶器	碗				灰白	透明	17c前	肥前	
281	日	土-福2	福2-19	福2-383	陶器	碗		(5.9)		高台端部施釉	灰白	透明	18c後	肥前
282	日	土-福2	福2-18	福2-385	陶器	碗		(4.3)		凸台輪窓施釉、雲在見草か	灰白	透明	18c	肥前
283	日	土-福2	福2-63	福2-384	陶器	碗		3.0		内面見込部に五弁花文	灰白	透明	18c後	肥前
284	日	土-福2	福2-70	福2-384	陶器	碗				灰白	透明	18c後	肥前	
285	日	土-福2	福2-73	福2-383	陶器	碗				灰	透明	18c末～19c初	肥前	
286	日	土-福2	福2-21	福2-383	陶器	碗	(11.1)	(6.2)	6.6	底面・外周面、松葉文様	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
287	日	土-福2	福2-74	福2-383	陶器	碗				見込部に五弁花文様	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
288	日	土-福2	福2-60	福2-384	陶器	碗	(7.4)			内面見込部に五弁花、高台外周部施釉、外周吉祥文字	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
289	日	土-福2	福2-77	福2-383	陶器	碗				松葉文	灰白	透明	18c前	肥前
290	日	土-福2	福2-30	福2-383	陶器	碗				外周に矢羽文、口縁内面四角凸文	灰白	透明	18c末～19c前	肥前
291	日	土-福2	福2-52	福2-384	陶器	茶碗			3.5	外周・口縁部に輪窓文	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
292	日	土-福2	福2-61	福2-383	陶器	茶碗				内面見込部に五弁花文、外周面花文	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
293	日	土-福2	福2-88	福2-384	陶器	茶碗				外周に矢羽文に華文文、内面見込部に五弁花(コンニャク印)、口縁部に四角凸文	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
294	日	土-福2	福2-59	福2-384	陶器	茶碗			3.6	内面見込部に五弁花(コンニャク印)、外周に矢羽文に華文文	灰白	透明	18c末～19c初	肥前
295	日	土-福2	福2-23	福2-384	陶器	茶碗	(3.5)			内面見込部に五弁花(コンニャク印)、高台外周部施釉、底面に松葉文	灰白	透明	19c前	瀬戸・美濃
296	日	土-福2	福2-66	福2-384	陶器	碗	5.4	3.7	5.2	灰白	透明	18c末～19c初	肥前	
297	日	土-福2	福2-67	福2-384	陶器	碗	(5.0)	(3.2)	5.5	灰白	透明	18c末～19c初	肥前	
298	日	土-福2	福2-58	福2-383	陶器	碗	(10.2)			灰白	透明	18c末～19c初	肥前	
299	日	土-福2	福2-47	福2-384	陶器	碗			3.4	灰白	透明	18c	瀬戸・美濃	
300	日	土-福2	福2-54	福2-383	陶器	碗			3.6	陶器胎付、内面五弁花文	灰	透明	19c	瀬戸・美濃
301	日	土-福2	福2-4	福2-383	陶器	碗			4.2	灰	不透明	瀬戸・美濃		
302	日	土-福2	福2-63	福2-384	陶器	碗			4.8	灰	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
303	日	土-福2	福2-53	福2-384	陶器	碗			(3.2)	灰	透明	18c後	瀬戸・美濃	
304	日	土-福2	福2-3	福2-370	陶器	天日鏡	(4.3)			陶器胎付、内面五弁花文	灰	透明	18c末～19c前	瀬戸・美濃
305	日	土-福2	福2-48	福2-384	陶器	碗			2.9	高台端の片ミガキ	灰	透明	18c後	瀬戸・美濃
306	日	土-福2	福2-61	福2-384	陶器	碗	(9.4)	3.5	5.6	口縁部施釉、高台部施釉、一部に鉄絵あり	灰	透明	18c	宮・伊賀
307	日	土-福2	福2-52	福2-384	陶器	碗			(9.0)	上縁あり(赤・青・緑・金彩)	灰	18c中～後	宮・伊賀	
308	日	土-福2	福2-53	福2-384	陶器	碗	(10.8)			胎付胎付、片周施あり	灰	18c末～19c前	宮・伊賀	
309	日	土-福2	福2-5	福2-383	陶器	茶碗			5.2	高台底面に「本」印	灰	18c末～19c前	瀬戸・美濃	
310	日	土-福2	福2-7	福2-383	陶器	茶碗			(4.1)	高台底面に「文」字不明、高台厚目に同転糸切痕	灰	施釉	18c末～19c前	瀬戸・美濃

No.	地 址	出土地点	実測地	注 記	観 測	部 形	法 量 (m)		特 徴	土 質	調 査	推定製作年代	推定遺地
							口径	高さ					
311	日 塚	検-39	日 塚-381	海跡	掘り手溝		3.8		巨形縄文土器	灰吹	遺灰	[8c~]19c前	瀬戸・美濃
312	日 塚	検-37	日 塚-381	海跡	溝		4.2		鉄物(刀)付の土器	灰吹	遺灰	18c	瀬戸・美濃
313	日 塚	検-38	日 塚-381	海跡	溝		(4.4)		倉庫下段に反輪	灰吹	遺灰	18c	瀬戸・美濃
314	日 塚	検-87	日 塚-384	海跡	仏具				陶器付付、四方唐文(雷紋有り)	灰吹	遺灰	18c前~19c前	瀬戸・美濃
315	日 塚	検-85	日 塚-384	海跡	溝				灰吹	灰吹	遺灰	18c前~19c前	肥前
316	日 塚	検-43	日 塚-384	海跡	溝				外面に草花文、内面欠片部に唐文、口縁内面に唐文	白	遺灰	18c前~19c前	肥前
317	日 塚	検-40	日 塚-384	海跡	掘り手溝	(9.7)	(3.6)	3.2	巨形縄文土器	灰吹	遺灰	18c前~19c前	瀬戸・美濃
318	日 塚	検-2	日 塚-384	海跡	溝	(5.5)			かすり形跡(手付)のみあり	灰吹	遺灰	18c	瀬戸・美濃
319	日 塚	検-64	日 塚-384	海跡	溝	(11.8)	(7.0)	3.1	内面草花文、溝外に草花唐文	灰吹	遺灰	18c前	肥前
320	日 塚	検-67	日 塚-384	海跡	溝	(12.0)	(7.6)	3.1	漆器成あり、口縁部彫り成し成形	白	遺灰	18c前	肥前
321	日 塚	検-28	日 塚-383	海跡	溝	(17.3)			内面1/2草花文、網目文、外周1/2草花唐文(口縁部は1/2草花文、口内面に2草花文)	白	遺灰	18c	肥前
322	日 塚	検-24	日 塚-383	海跡	溝	(13.1)			高台跡(草花文、網目文)	白	遺灰	18c	肥前
323	日 塚	検-29	日 塚-384	海跡	溝	(8.4)			内面見込部に唐文、紋付唐文、柱の目取高台、口縁内面彫刻	灰吹	遺灰	18c	肥前
324	日 塚	検-27	日 塚-383	海跡	溝		6.5		彫り古物、高台跡のみあり	白	遺灰	18c前	肥前
325	日 塚	検-86	日 塚-384	海跡	溝				彫り古物付高台、山文	灰吹	遺灰	18c前~19c前	肥前
326	日 塚	検-84	日 塚-383	海跡	溝				漆器成あり、外面に唐文、紋付唐文	灰吹	遺灰	18c前~19c前	肥前
327	日 塚	検-79	日 塚-383	海跡	溝				口縁内面四方唐文、見込部に唐文、外面に梅花文	白	遺灰	18c前	肥前
328	日 塚	検-75	日 塚-383	海跡	溝				内面に網目・無文文、見込部に草花文(コンキョウ印)、外面唐文文、唐文に唐文	白	遺灰	18c中	肥前
329	日 塚	検-78	日 塚-383	海跡	溝				口縁口縁、見込部に草花文、口口成形成に輪花彫りに唐文彫、漆器成	白	遺灰	18c前~19c前	肥前
330	日 塚	検-10	日 塚-382	海跡	溝	(19.4)			口縁部彫唐文、内面見込部に唐文、底面彫輪花唐文	灰吹	遺灰	18c前~19c前	瀬戸・美濃
331	日 塚	検-9	日 塚-383	海跡	溝		(5.1)		方角見込部に唐文による凹部あり	灰吹	遺灰	18c前	肥前
332	日 塚	検-46	日 塚-384	海跡	溝		(6.0)		内面見込部に輪花	灰吹	遺灰	17c前	瀬戸・美濃
333	日 塚	検-45	日 塚-383	海跡	灯明受皿	(10.6)	(4.8)	1.8		灰	遺灰	18c~19c	瀬戸・美濃
334	日 塚	検-44	日 塚-384	海跡	溝	(10.0)	4.6	1.9	高台跡、外面に彫刻に被破痕あり	灰	遺灰	19c前	京・信濃
335	日 塚	検-1	日 塚-377	土器	土器	(8.2)	(6.0)	2.1	彫器穿し、口口成形成、高台跡あり	褐色	一	不明	在地産
336	日 塚	検-48	日 塚-383	海跡	溝	(11.2)	(8.3)	5.0	コップ状高台、外周一面に手付ヘラズリ	白	遺灰	18c後	瀬戸・美濃
337	日 塚	検-76	日 塚-383	海跡	溝				外面に唐文・漆文、内面に上段(唐・金)の紋章	白	遺灰	18c	肥前
338	日 塚	検-22	日 塚-386	海跡	溝	(7.3)	(5.4)	5.4	矢羽文、高台跡と口縁内面に草花文、底面に1/2内面高台	白	遺灰	18c中	肥前
339	日 塚	検-72	日 塚-383, 389	海跡	溝				漆器成あり、人物文	白	遺灰	18c	肥前
340	日 塚	検-51	日 塚-383	海跡	角鉢				輪・松文、彫り成形	白	遺灰	19c後	瀬戸・美濃
341	日 塚	検-49	日 塚-385	海跡	溝		(7.6)		白磁下塗り、底面給のち石灰石の反輪上掛け	陶灰	灰	不明	不明
342	日 塚	検-35	日 塚-383	海跡	溝	(5.8)	6.2	4.8	白磁下塗り、底面給、溝あり	灰吹	遺灰	18c	瀬戸・美濃
343	日 塚	検-33	日 塚-383	海跡	溝	(3.0)			陶器成し掛け	灰吹	遺灰	18c後	瀬戸・美濃
344	日 塚	検-11	日 塚-383, 384	海跡	溝	(10.7)	16.1		漆器成あり	灰吹	遺灰	18c後	瀬戸・美濃
345	日 塚	検-30	日 塚-383	海跡	溝	(15.0)				灰吹	遺灰	18c~19c	瀬戸・美濃
346	日 塚	検-30	日 塚-383	海跡	溝	14.2			灰吹に銅線彫成し掛け	灰吹	遺灰	18c~19c	瀬戸・美濃
347	日 塚	検-31	日 塚-383	海跡	溝	(13.0)				灰吹	遺灰	18c~19c	瀬戸・美濃
348	日 塚	検-11	日 塚-383	海跡	溝	(9.0)				陶	灰	不明	不明
349	日 塚	検-17	日 塚-386	海跡	溝	(13.0)				陶	灰	不明	不明
350	日 塚	検-16	日 塚-383	海跡	溝	(11.2)				陶	灰	不明	不明
351	日 塚	検-13	日 塚-382	海跡	溝	(12.0)			内面使用痕跡、欄目4本[1]単位	灰吹	遺灰	不明	不明
352	日 塚	検-14	日 塚-383	海跡	溝	(10.0)				灰吹	遺灰	不明	不明
353	日 塚	検-12	日 塚-382	海跡	溝	(9.2)				灰吹	遺灰	不明	不明
354	日 塚	検-15	日 塚-383	海跡	溝	(8.5)				陶	灰	不明	不明
355	日 塚	検-3	日 塚-383	海跡	溝	(15.5)			サマ・漆文	陶	灰	不明	不明
356	日 塚	検-50	日 塚-388	海跡	溝	7.6			粘土未切磨、表面磨削	陶	灰	不明	不明
357	日 塚	検-36	日 塚-383	海跡	溝	(8.8)	(5.8)	4.1	溝成あり、へら状工具と歯状により方形輪花彫成	灰吹	遺灰	18c前~19c前	瀬戸・美濃
358	日 塚	検-69	日 塚-383	海跡	溝				内外面付着	灰	遺灰	18c	瀬戸・美濃
359	日 塚	検-29	日 塚-384	海跡	溝				網目、局所唐文(唐文)、内面彫刻	灰吹	遺灰	18c前	瀬戸・美濃
360	日 塚	検-23	日 塚-384	海跡	溝				草文	白	遺灰	18c前	肥前
361	日 塚	検-66	日 塚-385	海跡	溝	(5.2)				白	遺灰	18c前~19c前	肥前
362	日 塚	検-62	日 塚-384	海跡	溝	(5.0)				白	遺灰	18c前~19c前	肥前
363	日 塚	検-26	日 塚-383	海跡	溝	3.2				白	遺灰	18c前	肥前
364	日 塚	検-25	日 塚-383	海跡	溝				体部下段に唐氏唐文(唐)、中位に草文(唐・金彩)	白	遺灰	19c後	瀬戸・美濃
365	日 塚	検-34	日 塚-381	海跡	溝	5.4				白	遺灰	19c後	瀬戸・美濃
366	日 塚	検-52	日 塚-384	海跡	溝	(5.8)			耳部(箇所)、鉄物・灰物掛け付	灰吹	遺灰	18c後	瀬戸・美濃
367	日 塚	検-6	日 塚-383	海跡	溝					灰吹	遺灰	不明	不明
368	日 塚	検-1	日 塚-281	海跡	溝					陶	灰	不明	不明
369	日 塚	検-1	日 塚-281	海跡	溝	(7.1)	(2.5)	3.0	内面見込部に山字、外周彫唐文上掛け	陶	灰	不明	不明
370	日 塚	検-2	日 塚-340	海跡	溝	5.3	4.2	2.7	彫り古物	灰吹	遺灰	19c前	京・信濃
371	日 塚	検-71	日 塚-280	海跡	溝	(6.6)	(3.9)	4.6	梅花文	灰吹	遺灰	18c前	肥前
372	日 塚	検-11	日 塚-280	海跡	溝	(11.0)				灰吹	遺灰	18c中	瀬戸・美濃

No	検	出土地点	実測No	注	形	類別	器形	寸法 (mm)		技法・文様・形類の特徴	胎土	胎商	推定製作年代	推定産地	
								口径	高さ						
373	Ⅲ	Ⅱ-71	71-20		陶器	罎	罎	—	—	唐灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃		
374	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ-20		陶器	罎	罎	9.0	5.2	2.2	白	透明	19c	肥前	
375	Ⅲ	Ⅱ-3	3-1	3-1-001	陶器	罎	罎	(11.3)	4.6	7.4	白灰	鉄	17c後	瀬戸・美濃	
376	Ⅲ	Ⅱ-5	5-1	5-1-004	陶器	罎	罎	(4.4)	—	—	白	透明	18c前	肥前	
377	Ⅲ	Ⅱ-7	7-1	7-1-006	陶器	罎	罎	—	—	—	白	透明	18c前	肥前	
378	Ⅲ	Ⅱ-8	8-1	8-1-010	陶器	罎	罎	—	5.2	2.7	白灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃	
379	Ⅲ	Ⅱ-19	19-1	19-1-015	陶器	罎	罎	(16.6)	—	—	白灰	鉄	17c中	瀬戸・美濃	
380	Ⅲ	Ⅱ-12	12-1	12-1-018	陶器	罎	罎	(11.2)	4.4	6.5	白	透明	17c後	肥前	
381	Ⅲ	Ⅱ-12	12-2	12-2-017, 135-053	陶器	罎	罎	(7.9)	—	—	灰	鉄	17c中～後	肥前	
382	Ⅲ	Ⅱ-12	12-2	12-2-017	陶器	罎	罎	(10.1)	—	—	灰	鉄	17c前	肥前	
383	Ⅲ	Ⅱ-18	18-1	18-1-057	陶器	罎	罎	(6.4)	—	—	灰	鉄	17c	肥前	
384	Ⅲ	Ⅱ-10	10-1	10-1-025	陶器	罎	罎	—	7.4	3.4	白	透明	17c	瀬戸・美濃	
385	Ⅲ	Ⅱ-17	17-1	17-1-029	陶器	罎	罎	—	4.4	—	白	透明	17c	肥前	
386	Ⅲ	Ⅱ-22	22-1	22-2-024	陶器	罎	罎	11.4	—	—	白質	鉄	17c	瀬戸・美濃	
387	Ⅲ	Ⅱ-22	22-2	22-2-029, 044	陶器	罎	罎	8.0	—	—	白質	鉄	19c	不明	
388	Ⅲ	Ⅱ-36	36-2	36-2-064	陶器	罎	罎	5.5	—	—	白質	鉄	17c後	瀬戸・美濃	
389	Ⅲ	Ⅱ-36	36-3	36-3-068	陶器	罎	罎	5.4	—	—	灰	鉄	17c後	瀬戸・美濃	
390	Ⅲ	Ⅱ-36	36-1	36-1-057, 14-023	陶器	罎	罎	(6.4)	—	—	白	青磁	17c	肥前	
391	Ⅲ	Ⅱ-36	36-4	36-4-057	陶器	片口罎	罎	(15.2)	—	—	白灰	鉄	18c後～19c前	瀬戸・美濃	
392	Ⅲ	Ⅱ-38	38-1	38-1-066	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	灰白	鉄	17c後	肥前	
393	Ⅲ	Ⅱ-38	38-2	38-2-066	陶器	罎	罎	6.2	—	—	白灰	鉄	17c	瀬戸・美濃	
394	Ⅲ	Ⅱ-38	38-3	38-3-066	陶器	罎	罎	(14.4)	—	—	白質	鉄	17c	瀬戸・美濃	
395	Ⅲ	Ⅱ-38	38-4	38-4-065	陶器	罎	罎	(5.4)	6.0	2.2	白	透明	17c	瀬戸・美濃	
396	Ⅲ	Ⅱ-41	41-2	41-2-068	陶器	罎	罎	(10.9)	4.5	7.3	褐	—	不明	在地産	
397	Ⅲ	Ⅱ-41	41-3	41-3-072	陶器	罎	罎	(8.3)	(5.0)	2.7	灰白	鉄心	17c前	瀬戸・美濃	
398	Ⅲ	Ⅱ-41	41-4	41-4-070, 071	陶器	罎	罎	(8.4)	—	—	白質	よる刷毛目	17c後	肥前	
399	Ⅲ	Ⅱ-41	41-5	41-5-072	土器	内耳罎	罎	(26.4)	—	—	褐	—	17c	在地産	
400	Ⅲ	Ⅱ-44	44-2	44-2-074	陶器	罎	罎	(9.6)	—	—	灰白	鉄	17c	瀬戸・美濃	
401	Ⅲ	Ⅱ-44	44-1	44-1-073	陶器	罎	罎	(2.8)	(3.1)	3.0	灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃	
402	Ⅲ	Ⅱ-46	46-1	46-1-080	陶器	罎	罎	(10.0)	—	—	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃	
403	Ⅲ	Ⅱ-47	47-1	47-1-082	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃	
404	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-15	48-1-114	陶器	罎	罎	(11.0)	—	—	山文文	白	透明	17c前	肥前
405	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-18	48-1-114	陶器	罎	罎	(4.2)	—	—	高灰文	透明	18c前	肥前	
406	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-16	48-1-106	陶器	罎	罎	(4.4)	—	—	白	透明	18c前	肥前	
407	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-17	48-1-107	陶器	罎	罎	(4.0)	—	—	白	透明	18c前	肥前	
408	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-12	48-1-112	陶器	天目罎	罎	(12.4)	—	—	灰	鉄	18c前	肥前	
409	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-13	48-1-114	陶器	罎	罎	(9.0)	—	—	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃	
410	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-3	48-1-114	陶器	罎	罎	(10.3)	—	—	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃	
411	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-9	48-1-113	陶器	天目罎	罎	(3.0)	—	—	灰	鉄	17c後～18c	肥前	
412	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-6	48-1-114	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	高灰文	鉄	17c	瀬戸・美濃	
413	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-2	48-1-114	陶器	罎	罎	(12.8)	—	—	灰	鉄	17c	肥前	
414	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-4	48-1-111	陶器	罎	罎	(11.4)	—	—	灰	鉄	17c	肥前	
415	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-7	48-1-111	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	漆繪あり	灰	17c	肥前	
416	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-14	48-1-114	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	上絵(金彩・紫・青・黒)、目録の趣入品か	灰	18c後	京・伊予	
417	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-12	48-1-105	陶器	罎	罎	7.9	—	—	内見見込部は印文・輪文、内面付着	灰	17c後～18c	肥前	
418	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-11	48-1-113	陶器	罎	罎	(5.8)	—	—	内見見込部に印文・輪文、内面付着	灰	17c前	瀬戸・美濃	
419	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-5	48-1-114	陶器	罎	罎	(12.9)	(8.3)	2.3	人取罎	灰	18c	瀬戸・美濃	
420	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-25	48-1-110	陶器	罎	罎	(9.9)	(3.8)	1.9	同転糸切罎	灰	不明	在地産	
421	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-22	48-1-103	土器	罎	罎	(10.8)	(7.3)	2.4	同転糸切罎	灰	不明	在地産	
422	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-21	48-1-110	土器	罎	罎	(9.6)	(5.7)	2.3	同転糸切罎	灰	不明	在地産	
423	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-23	48-1-106	土器	罎	罎	(6.4)	(4.9)	1.5	同転糸切罎	灰	不明	在地産	
424	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-20	48-1-110	土器	罎	罎	(8.9)	(5.4)	1.8	同転糸切罎	灰	不明	在地産	
425	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-13	48-1-113, 441-069	陶器	合子	罎	(32.8)	—	—	漆繪あり、外面打層刷文(漆・花文)	白	不明	在地産	
426	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-19	48-1-100	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	漆繪あり、外面打層刷文(漆・花文)	灰	17c後	瀬戸・美濃	
427	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-10	48-1-111	陶器	罎	罎	(5.0)	—	—	高台外縁に金彩による1重線	白	17c前	肥前	
428	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-24	48-1-113	土器	内耳罎	罎	(27.4)	—	—	高台外縁付着、内外面工具ナシ磨	褐色・黒	不明	在地産	
429	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-25	48-1-113	土器	内耳罎	罎	(29.1)	—	—	内外面工具ナシ	褐色・黒	不明	在地産	
430	Ⅲ	Ⅱ-48	48-1-27	48-1-106	陶器	女鉢	罎	—	—	—	磨滑片、磨子か、部に灰染あり、上面に丸孔1箇所、底面磨、磨熱あり	灰白	17c	瀬戸・美濃	
431	Ⅲ	Ⅱ-48	48-2	48-2-156	陶器	罎	罎	(10.2)	—	—	灰	白	透明	17c	肥前
432	Ⅲ	Ⅱ-48	48-3	48-3-152	陶器	罎	罎	—	—	—	白	透明	17c	肥前	
433	Ⅲ	Ⅱ-48	48-3	48-3-152	陶器	罎	罎	—	—	—	白	透明	17c	肥前	
434	Ⅲ	Ⅱ-48	48-4	48-4-152	陶器	罎	罎	—	—	—	白	透明	17c	肥前	

No	種	出土地点	英略称	注 記	製 別	形 形	法 量 (m)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	輪 脚	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	高さ					
435	Ⅲ	百保	検-6	巨保-150	陶器	罎		3.9		白濁による刷毛目	灰~褐	灰	17c後	不明
436	Ⅲ	百保	検-9	巨保-152	陶器	罎		(5.1)			灰	灰	17c後	不明
437	Ⅲ	百保	検-7	巨保-152	陶器	罎		(4.7)		白濁による水紋掛	灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
438	Ⅲ	百保	検-8	巨保-156	陶器	罎		(5.7)		産地不明	灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
439	Ⅲ	百保	検-11	巨保-156	陶器	罎		(4.0)		産地不明	灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
440	Ⅲ	百保	検-13	巨保-152	陶器	罎	(5.7)	(4.2)		腰帯一部露出	灰	灰	17c	瀬戸・美濃
441	Ⅲ	百保	検-10	巨保-152	陶器	罎		(2.5)			灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
442	Ⅲ	百保	検-12	巨保-152	陶器	罎		(4.6)			灰	灰	18c	瀬戸・美濃
443	Ⅲ	百保	検-14	巨保-152	陶器	罎		(10.5)		頸付成帯、七宝文様、煎茶(明)	白	白	17c後	不明
444	Ⅲ	百保	検-22	巨保-159	陶器	罎	(10.5)	(5.9)	2.3	紋様、2重縁飾	白灰	灰石	17c前	瀬戸・美濃
445	Ⅲ	百保	検-21	巨保-152	陶器	罎		(5.4)		鉄線文	黄灰	黒石	17c前	瀬戸・美濃
446	Ⅲ	百保	検-20	巨保-152	陶器	罎		(5.8)		陶物染付、高台周部以外は金襴縁飾、見込帯に長須飾	黄白灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
447	Ⅲ	百保	検-23	巨保-152	陶器	罎	(11.0)	(5.2)	2.4	内面に裏付	灰白	灰石	17c前	瀬戸・美濃
448	Ⅲ	百保	検-24	巨保-152	陶器	罎	(10.1)	(5.9)	2.1	内面のみに鉄線縁飾、裏面に煎茶末切	黄白灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
449	Ⅲ	百保	検-25	巨保-152	陶器	罎	(10.5)			灯形交差	灰	---	17c前?	不明
450	Ⅲ	百保	検-18	巨保-134	土器	皿	(5.4)	(5.8)		煎茶末切	黒	---	不明	不明
451	Ⅲ	百保	検-17	巨保-152	土器	皿	(8.4)	(5.5)		煎茶末切	黒	---	不明	不明
452	Ⅲ	百保	検-19	巨保-152	土器	皿	(10.4)	(5.3)		煎茶末切	黒	---	不明	不明
453	Ⅲ	百保	検-14	巨保-152	陶器	鉢	(12.1)				灰	鉄	18c	瀬戸・美濃
454	Ⅲ	百保	検-16	巨保-152	陶器	鉢	(15.7)			縁飾下地塗り、銅線縁飾、煎茶、見込帯に7本の帯目あり、黄瀬戸鉢	灰白	---	17c後	瀬戸・美濃
455	Ⅲ	百保	検-26	巨保-154	陶器	鉢	(10.8)			煎茶山崎、内面縁飾・外底縁飾	黄白灰	鉄・黒	17c後	瀬戸・美濃
456	Ⅲ	百保	検-27	巨保-152	陶器	鉢	(4.9)			外底縁飾の縁飾、復元図	白	---	17c後	瀬戸・美濃
457	Ⅲ	百保	検-15	巨保-152	陶器	金輪	(10.2)			耳張口	灰	灰	18c	瀬戸・美濃
用 遺														
458	Ⅰ	1-18	±18-18	±18-062	陶器	埴輪	(7.1)	3.2	5.1	金襴淨付	灰	---	---	不明
459	Ⅰ	1-18	±18-17	±18-062	陶器	埴輪	(6.8)	3.3	5.3	金襴淨付	灰	---	---	不明
460	Ⅰ	1-18	±18-33	±18-061	陶器	埴輪				金襴淨付	灰	---	---	不明
461	Ⅰ	1-18	±18-13	±18-062	陶器	埴輪		(3.2)		金襴淨付	灰	---	---	不明
462	Ⅰ	1-18	±18-14	±18-062	陶器	埴輪		(3.2)		金襴淨付	灰	---	---	不明
463	Ⅰ	1-18	±18-15	±18-063	陶器	埴輪		(4.9)		金襴淨付	灰	---	---	不明
464	Ⅰ	1-18	±18-21	±18-068	陶器	罎	(6.3)	3.6	5.7	埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	小割	---	不明
465	Ⅰ	1-18	±18-20	±18-062	陶器	罎	(6.6)	(3.7)	5.5	埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
466	Ⅰ	1-18	±18-34	±18-063	陶器	罎				陶器を埴輪に転用、金襴淨付	灰	---	---	瀬戸・美濃
467	Ⅰ	1-18	±18-32	±18-062	陶器	罎		(3.9)		埴輪に転用、金襴淨付	灰	---	---	瀬戸・美濃
468	Ⅰ	1-18	±18-27	±18-075	陶器	罎		(3.4)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
469	Ⅰ	1-18	±18-24	±18-072	陶器	罎		3.8		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
470	Ⅰ	1-18	±18-26	±18-074	陶器	罎		(3.5)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
471	Ⅰ	1-18	±18-19	±18-062	陶器	罎		3.5		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
472	Ⅰ	1-18	±18-28	±18-077	陶器	罎		(3.3)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
473	Ⅰ	1-18	±18-31	±18-062	陶器	罎		3.7		埴輪に転用、金襴淨付	灰	---	---	不明
474	Ⅰ	1-18	±18-30	±18-078	陶器	罎		(3.5)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	瀬戸・美濃
475	Ⅰ	1-18	±18-28	±18-076	陶器	罎		(3.6)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
476	Ⅰ	1-18	±18-25	±18-073	陶器	罎		(3.5)		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
477	Ⅰ	1-18	±18-22	±18-071	陶器	罎		3.6		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
478	Ⅰ	1-18	±18-23	±18-071	陶器	罎		3.5		埴輪に転用、金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
479	Ⅰ	1-19	±19-5	±19-007	陶器	埴輪				金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
480	Ⅰ	1-19	±19-6	±19-007	陶器	埴輪		(3.6)		金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
481	Ⅰ	1-20	±20-2	±20-070	陶器	埴輪	7.0	4.4	5.8	金襴淨付	黄灰	不明	---	不明
482	Ⅰ	1-20	±20-6	±20-068	陶器	埴輪		3.7		金襴淨付	灰	---	---	不明
483	Ⅰ	1-20	±20-3	±20-072	陶器	埴輪	(5.5)	(3.0)		金襴淨付	灰	---	---	不明
484	Ⅰ	1-20	±20-8	±20-069	陶器	埴輪		(4.2)		金襴淨付	灰	---	---	不明
485	Ⅰ	1-20	±20-7	±20-014	陶器	埴輪	(5.2)		4.8	金襴淨付	灰	---	---	不明
486	Ⅰ	1-20	±20-5	±20-010	陶器	埴輪		(4.0)		金襴淨付	灰	---	---	不明
487	Ⅰ	1-20	±20-9	±20-016	陶器	埴輪		3.6		金襴淨付	灰	---	---	不明
488	Ⅰ	1-20	±20-4	±20-011	陶器	埴輪		(3.5)		金襴淨付	灰	---	---	不明
489	Ⅰ	1-20	±20-4	±20-030	陶器	埴輪				金襴淨付	灰	---	---	不明
490	Ⅰ	1-20	±20-3	±20-030	陶器	埴輪				金襴淨付	灰	---	---	不明
491	Ⅰ	1-20	±20-2	±20-077	陶器	埴輪				金襴淨付	灰	---	---	不明
492	Ⅰ	1-20	±20-2	±20-079	陶器	埴輪		6.7		金襴淨付	灰	---	---	不明
493	Ⅰ	1-24	±41-6	±41-049	陶器	埴輪	(7.4)	(3.8)	5.2	金襴淨付	灰	---	---	不明
494	Ⅰ	1-24	±41-8	±41-038	陶器	埴輪		(5.5)		金襴淨付	黄灰	---	---	不明
495	Ⅰ	1-24	±41-9	±41-049	陶器	埴輪	(5.5)			金襴淨付	灰	---	---	不明

№	検	出土地点	実測値	注	種別	器形	法 量 (m)			技法・文様・形 態 の 特 徴	胎 土	胎 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	高さ					
496	I	±41	±41-7	±41-049	陶器	高台				陶器高台を器場に転用、金属押付着	灰土	透明	不明	不明
497	I	±42	±42-1	±42-120	陶器	小杯	6.0	3.6	3.6	陶器小杯を器場に転用、金属押付着	灰土	透明	不明	不明
498	I	遺跡1	遺跡1-10	遺跡1-107	陶器	埴輪	7.0			金属押付着	灰	—	—	不明
499	I	遺跡1	遺跡1-9	遺跡1-105	陶器	埴	(7.5)			陶器高台器場に転用、金属押付着	灰土	灰	—	不明
500	I	検	検-12	1検-168	陶器	埴輪	(6.2)			金属付着	灰	—	—	不明
501	I	検	検-13	1検-169	陶器	埴輪	(6.5)			金属押付着	灰	—	—	不明
502	I	検	検-14	1検-161	陶器	埴輪				金属押付着	灰	—	—	不明
503	I	検	検-15	1検-161	陶器	埴輪	(3.5)			金属押付着	灰	—	—	不明
504	I	検	検-16	1検-162	陶器	埴輪		2.7		金属押付着	灰	—	—	不明
505	I	検-71	71-2	71-131	陶器	埴輪	(7.4)			金属押付着	灰	—	—	不明
506	I	検-71	71-3	71-131	陶器	埴輪	(7.1)			金属押付着	灰	—	—	不明
507	II	±56	±56-3	±56-080	陶器	埴輪	(7.9)			金属押付着	灰	透明	不明	不明
508	II	±41	±41-1	±41-071	陶器	埴輪	(3.8)			金属押付着	埴灰	—	—	不明

№	検	出土地点	実測値	注	種別	器形	法 量 (m)			技法・文様・形 態 の 特 徴	胎 土	胎 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	高さ					
509	II	±113	±113-191	±113-191	土製器	ほじき	2.2	2.2	0.7	手づくね成形	埴	—	不明	不明
№	検	出土地点	実測値	注	種別	器形	法 量 (m)			技法・文様・形 態 の 特 徴	胎 土	胎 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	高さ					
510	II	±73	±73-1	±73-221	土製器	罐形口	9.7	2.3	9.7	埴部に金属押付着、器面ナデ・磨理圧痕	灰土	濁	不明	不明
511	II	±79	±79-1	±79-122	土製器	罐形口	8.5	1.8	10.7	埴部に金属押付着、器面ナデ・磨理圧痕	埴	濁	不明	不明
512	II	±37	±37-1	±37-059	土製器	罐形口	9.4	2.1	13.9	埴部に金属押付着、器面ナデ・磨理圧痕	埴	濁	不明	不明

第3表 木製品観察表

図№	検出面	遺 跡	整理番号	器 種	手 法	法 量 (m)			備 考
						長 さ・口 径	幅	厚 さ・高 さ	
1	I	±18	A-1-1	下駄	板目	(23.4)	7.7	厚1.3・高2.5	白褐色漆塗下駄、前歯欠損あり
2	I	検1	A-1-2	椀	板目	3.5	2.8	厚2.8	歪みあり
3	II	±27	A-II-1	蓋	板目	つまみ径4.6			縦溝、内外面黒漆
4	II	±27	A-II-2	柄杓	板目	15.6		厚0.8・高14.1	柄欠損、鉄分及び他の付着物有り
5	II	±27	A-II-3	柄杓	板目	13.8		厚0.5・高10.5	断面上方の欠損著しい、柄部欠損
6	II	±27	A-II-4	円板	板目	27.0		厚1.3	片面に薄く黒漆、縁部との接線部に竹釘2カ所あり
7	II	±27	A-II-5	脚	板目	(4.7)	(4.5)	厚(1.0)	やや磨理の脚
8	II	±30	A-II-6	蓋	板目	つまみ径4.2			縦溝、内外面黒漆、外面には朱漆で丸文区画に花文様4箇所、体部に径7mmの小孔あり
9	II	±36	A-II-7	下駄	板目	21.1	8.2	厚1.0・高4.3	台方形漆塗下駄、裏面に加工痕著、器持た
10	II	±42	A-II-8	円板	板目	13.1		厚1.0	全体に薄く黒漆
11	II	±56	A-II-9	蓋	板目	つまみ径6.0・口径3.5		高さ3.0	縦溝、内外面朱漆、歪みあり
12	II	±56	A-II-10	蓋	板目	つまみ径4.2・口径0.8		高さ2.3	縦溝、外面は黒漆の上に金剛輪で丸文区画文様(家紋か)、内面は黒漆の上に朱漆を塗る
13	II	±56	A-II-11	蓋	板目	8.4	6.4	厚0.6	長方形の箱蓋、小孔5箇所、外面に黒漆
14	II	±56	A-II-12	漆物	板目	長径16.7・短径15.6		厚0.8・高(6.8)	歪み著しい
15	II	±56	A-II-13	漆器	板目	4.7	13.0	厚0.9	ほぼ方形、中央部一部欠損、磨理型
16	II	±56	A-II-14	下駄	板目	19.1	9.1	厚1.5・高3.3	台方形漆塗下駄、裏面に加工痕有り、後面の縁り著しい
17	II	±64	A-II-15	円板	板目	16.2		厚1.1	
18	II	±64	A-II-16	不明	板目	幅2.7		厚0.9	中心部に径5mmの穴有り
19	II	±65	A-II-17	曲物	板目	幅8.9		厚1.3	両面共に黒漆、上面は少し丸みを帯びている
20	II	±65	A-II-18	下駄	板目	23.0		厚1.2・高6.8	台方形漆塗下駄、板部に比べ蓋は厚く大きい、鉄分付着
21	II	±70	A-II-19	円板	板目	幅32.0		厚0.9	断面に2カ所木釘の穴、鉄分少量付着
22	II	±79	A-II-20	脚	板目	口径12.6・高さ3.3		高さ8.8	内面朱漆、外面黒漆、底部(底蓋)に漆塗の文字か
23	II	±79	A-II-21	円板	板目	8.3		厚1.1	全面に薄く黒漆、鉄分付着
24	II	±79	A-II-22	曲物	板目	幅18.5		厚0.7・高(6.7)	鉄分付着
25	II	±79	A-II-23	漆	板目	幅3.0		高さ8.8	鉄分付着、工具痕有り、使用痕有り
26	II	±82	A-II-24	漆	板目	20.0	(8.2)	厚0.6	内外面黒漆、歪み有り
27	II	±91	A-II-25	漆	板目	24.3	0.7	高さ0.7	黒漆の蓋、歪みあり
28	II	±92	A-II-26	円板	板目	8.2		厚0.5	歪みあり

図No	表出図	通 稱	標準番号	器 種	手 法	寸 法 (mm)			備 考	
						長 さ・口 径	幅	厚 さ・高 さ		
29	II	±92	A-II-27	円板	板目	径16.0	—	厚1.0	側面に竹釘痕あり	
30	II	±98	A-II-28	蓋	板目	7.3	(4.4)	厚0.6	六角形蓋蓋、内面漆塗、外面にも漆痕あり	
31	II	±98	A-II-29	円板	板目	径6.2	—	厚0.8	鉄分付着	
32	II	±103	A-II-30	円板	板目	径17.8	—	厚1.1	中心から外側にかけて歪みあり、鉄分付着	
33	II	±103	A-II-31	下駄	板目	23.9	9.4	厚1.2・高3.4	台方形漆塗下駄、裏面に小孔3個あり(径2~4mm)、被熱痕あり	
34	II	±103	A-II-32	下駄	板目	(11.0)	(8.0)	厚1.1・高1.8	台槽円形漆塗下駄、歯の減り著しい、鉄分付着	
35	II	±106	A-II-33	下駄	板目	23.1	8.0	厚1.2・高5.8	台槽円形漆塗下駄、前面3カ所釘による補修痕あり、片側欠損、指頭圧痕あり	
36	II	±107	A-II-34	槍	板目	4.5	—	上2.0・下1.2	摩耗著しく加工痕不明、使用痕あり	
37	II	±107	A-II-35	箸	板目	22.4	0.7	厚0.5	(C)は上方に小孔あり、輪7点	
38	II	±113	A-II-36	円板	板目	12.7	—	厚0.8	付着物有り、全体に赤褐色色	
39	II	±117	A-II-37	柄	板目	—	—	—	内外両面漆の上に朱漆重ね塗り、鉄分付着	
40	II	±130	A-II-38	箸	板目	(22.4)	—	厚0.5	加工痕有り	
41	II	±130	A-II-39	匙	板目	(3.1)	(10.2)	—	1.0	箸跡、鞘蓋および歯の先端部はぼけ痕
42	II	溝状T	A-II-40	円板	板目	22.0	—	厚1.1	鋸持ち材、接合面に2カ所釘穴あり	
43	II	水道I	A-II-41	継手	角材 板目	26.4	—	厚14.0・高14.0	歯溝あり、加工痕明瞭、竹管挿入孔に麻織のパッキンあり	
44	II	榫I	A-II-42-1	円板	板目	径7.2	—	厚1.0・高3.5	柄杓の底板、№45と同一	
45	II	榫I	A-II-42-2	曲物	板目	—	—	厚0.3・高(3.5)	№44と同一	
46	II	検出面	A-II-43	円板	板目	径6.0	—	厚0.7	両面黒漆痕あり	
47	II	T	A-II-44	下駄	板目	20.2	(3.4)	厚1.3・高2.6	小型台方形漆塗下駄	
48	II	排土	A-II-45	継手	角材 板目	26.2	—	厚13.5・高13.4	竹管挿入孔は径6.8mmで麻織のパッキンあり	
49	III	±5	A-III-1	下駄	板目	(14.9)	(6.8)	厚1.3・高2.8	台方形漆塗下駄、子供用か	
50	III	±5	A-III-2	下駄	板目	22.9	9.1	厚1.5・高3.7	台方形漆塗下駄、足裏・指頭圧痕あり	
51	III	±5	A-III-3	下駄	板目	19.6	7.0	厚1.3・高2.7	台槽円形漆塗下駄、指頭圧痕あり、前後歯部とも片側が摩滅、鉄分付着	
52	III	±12	A-III-4	柄	板目	—	—	—	輪蓋、内・外面黒漆の上に朱漆	
53	III	±12	A-III-5	下駄	板目	21.4	8.5	厚1.7・高8.1	台方形漆塗下駄、裏面に加工痕が顕著、指頭圧痕あり	
54	III	±12	A-III-6	不明	板目	33.5	—	1.2	加工痕あり	
55	III	±13	A-III-7	箸	板目	24.6	—	厚0.7	加工痕あり	
56	III	±14	A-III-8	継手	板目	13.3	—	4.7	厚1.6	全面に薄く黒漆、漆柄の凹みか
57	III	±14	A-III-9	台の脚	板目	8.0	—	厚0.9・高3.5	下面中央に斜めの切り込みあり	
58	III	±19	A-III-10	柄	板目	口径12.8・高径6.0	—	径高6.1	輪蓋、内外両面黒漆の上に朱漆	
59	III	±19	A-III-11	曲物	板目	長径17.3・短径12.0	—	厚0.6・高11.5	槽形口に歪み、内側部分に漆、外側に朱漆	
60	III	±19	A-III-12	下駄	板目	20.1	8.2	厚1.2・高3.0	台方形漆塗下駄、指頭圧痕あり	
61	III	±19	A-III-13	下駄	板目	16.7	7.0	厚0.8・高1.2	台槽円形漆塗下駄、法蓋から子供用とみられ、歯部ほとんど摩滅	
62	III	±19	A-III-14	下駄	板目	17.4	7.8	厚1.7・高6.4	台槽円形漆塗下駄、台部表面は全体に薄く剥離	
63	III	±22	A-III-15	柄	板目	—	—	—	内外両面黒漆の上に朱漆	
64	III	±22	A-III-16	円板	板目	径12.8	—	厚1.1	両面に薄く黒漆	
65	III	±23	A-III-17	柄	板目	口径11.0・高径5.0	—	径高3.4	内外両面に黒漆の上に朱漆	
66	III	±23	A-III-18	円板	板目	径15.5	—	厚0.7	—	
67	III	±31	A-III-19	刃磨の柄	板目	9.9	3.5	2.0	丸く加工、刃部凹凸あり	
68	III	±32	A-III-20	下駄	板目	20.8	9.5	厚1.1・高2.0	台槽円形漆塗下駄、指頭圧痕あり、歯部摩滅顕著	
69	III	±33	A-III-21	円板	板目	径16.8	—	厚0.9	片面に黒漆が少量残存	
70	III	±33	A-III-22	下駄の歯	板目	10.5	—	厚1.5・高7.3	歯底部の減り方が均一ではない	
71	III	±34	A-III-23	下駄	板目	20.8	7.5	厚1.8・高7.5	台槽円形漆塗下駄、指頭圧痕あり、後歯部破損の後に釘3本打ち補強	
72	III	±36	A-III-24	柄	板目	口径12.3	—	—	内外両面に黒漆の上に朱漆、高台の磨れ著しい	
73	III	±36	A-III-25	柄	板目	—	—	—	両面に黒漆の上に朱漆、外面は黒漆の上に朱漆で文様あり	
74	III	±36	A-III-26	下駄	板目	22.7	9.0	厚1.6・高4.0	台方形漆塗下駄、後歯の摩滅著しい、指頭圧痕あり、鉄分付着	
75	III	±36	A-III-27	下駄	板目	(16.3)	9.7	厚1.2・高3.3	台方形漆塗下駄、指頭圧痕あり、右上方に釘2本打ち込みあり	
76	III	±36	A-III-28	下駄	板目	20.4	7.5	厚1.1・高3.4	台槽円形漆塗下駄、後歯の摩滅著しい	
77	III	±36	A-III-29	下駄の歯	板目	12.3	—	厚1.7・高10.2	歯部歪み部分少し破損	
78	III	±38	A-III-30	円板	板目	20.6	—	厚1.2	磨れに依る歪み	
79	III	±38	A-III-31	下駄	板目	21.6	10.3	厚1.0・高4.0	台方形漆塗下駄、右側面に加工痕あり、後歯の摩滅著しい	
80	III	±39	A-III-32	下駄	板目	22.5	8.8	厚1.2・高3.0	台方形漆塗下駄、右表面に刻印あり、指頭圧痕有り	

図No	検出面	遺構	整理番号	修復	手法	法			備考
						長さ・口値	幅	厚さ・高さ	
81	Ⅱ	土39	A-Ⅱ-33	下駄	柱目	(13.6)	(6.9)	厚1.2・高4.0	台檜門形連書下駄、台座欠損著しい、前部片側の摩滅
82	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-34	桷	柱目	—	—	—	内外両面に黒漆
83	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-35	桷	柱目	—	—	—	濡れによる歪み、内外両面に黒漆の上に朱漆
84	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-36	蓋	柱目	つまみ径6.0・口幅11.0	—	—	内面黒漆の上に朱漆、外面黒漆
85	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-37	円板	柱目	径30.4	—	厚0.8	黒漆残存
86	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-38	円板	柱目	14.2	—	厚0.8	片面に黒漆、側面に加工痕が残る
87	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-39	曲物蓋	柱目	径15.5	—	厚0.9	表面に2箇所、裏に3箇所釘が残る
88	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-40	下駄	柱目	20.7	6.6	厚1.1・高4.7	台檜門形連書下駄、後歯は欠損のち釘を打ち補修、後歯の摩滅著しい
89	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-41	下駄	柱目	22.7	(7.3)	厚3.7・高5.8	台方形連書下駄（羅浮下駄）、後歯は欠損
90	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-42	不明	柱目	径2.5	—	厚0.7	—
91	Ⅱ	土41	A-Ⅱ-43	不明	柱目	径2.5	—	厚0.7	—
92	Ⅱ	土42	A-Ⅱ-44	円板	柱目	径15.4	—	厚1.2	片面は破損摩滅
93	Ⅱ	土45	A-Ⅱ-45	円板	柱目	径14.9	—	厚0.8	片面部分的に炭化
94	Ⅱ	土48	A-Ⅱ-46	下駄	柱目	20.9	8.9	厚1.5・高3.3	台檜門形連書下駄、後歯摩滅著しい、右裏側付近に加工痕明瞭
95	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-47	円板	柱目	径18.8	—	厚0.8	側板との止め釘1カ所残存、歪みあり、中心部厚く円筒が薄い
96	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-48	円板	柱目	径14.7	—	厚0.9	—
97	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-49	下駄	柱目	(14.6)	9.5	厚1.3・高5.0	台方形連書下駄、台版上面中央に「キ」刻痕あり、後部1/2欠損
98	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-50	下駄	柱目	17.2	7.1	厚1.5・高4.8	台方形連書下駄、子供用か
99	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-51	下駄	柱目	(16.2)	(3.3)	厚1.0・高1.8	台方形連書下駄、歯はほとんど欠損、子供用か
100	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-52	下駄	柱目	20.7	7.8	厚1.6・高1.9	台方形連書下駄、一部炭化、摩滅と濡れが著しい
101	Ⅱ	溝1	A-Ⅱ-53	下駄の歯	柱目	11.8	—	厚1.9・高8.7	接合面が斜めに減る、片面に欠損が多い
102	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-54	桷	柱目	—	—	—	内外両面ともに黒漆の上に朱漆
103	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-55	円板	柱目	径34.0	—	厚1.0	側板との接合部に竹釘痕あり、両面に黒漆
104	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-56	不明	柱目	径6.3	—	厚1.9	側面に黒漆、径5mmの小孔あり、桷の高台部の転用品か？
105	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-57	蓋	柱目	(15.9)	0.6	厚0.6	加工痕あり、他1点
106	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-58	下駄	柱目	23.5	9.2	厚1.5・高1.9	台方形連書下駄、指頭圧痕あり、歯部はほとんど摩滅
107	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-59	下駄	柱目	22.6	9.9	厚1.6・高2.9	台方形連書下駄、指頭圧痕あり、歯は右側が著しく摩滅、後歯に釘打ち込み、数分付着
108	Ⅱ	溝状Ⅰ	A-Ⅱ-60	下駄	柱目	23.5	8.8	厚1.6・高1.8	台方形連書下駄、磨食著しく歯部原形を留めない
109	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-61	桷	柱目	口径12.4・高径6.0	—	径4.0	内外面黒漆の上に朱漆、外面に文様あり
110	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-62	杓子	柱目	(19.1)	7.6	厚1.5	柄の一端欠損、全体に黒漆が薄く塗られている
111	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-63	円板	柱目	15.4	—	厚1.6	厚めの円板、両面に黒漆
112	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-64	曲物	柱目	径19.3・高径17.5	—	厚0.6・高(9.0)	破損著しく歪み大
113	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-65	下駄	柱目	23.6	9.2	厚1.0・高3.9	台方形連書下駄、指頭圧痕あり、歯部は前後共に片側に摩滅、右裏面に加工痕あり
114	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-66	下駄	柱目	21.7	8.6	厚1.0・高2.8	台方形連書下駄、歯部前後ともに片側の摩滅が著しい
115	Ⅱ	T 1	A-Ⅱ-67	蓋	柱目	—	—	—	内外面黒漆、体部外面と天井部に文様あり
116	Ⅱ	排土	A-Ⅱ-68	曲物	柱目	径16.5	—	高(12.7)	柄杓の曲物、歪み著しいため実測断面は残存状態の良好な部分で復元

第4表 金属製遺物遺構単位器種組成

検	遺構	種	洋	数量(個)	がま口	煙管	煎茶元火	火箸	寛永通宝	丸釘	小釘	針金	釘	鉄鍋	銅鍋	不明	電子	小計
I	SC	1	C															1
	SD	1	C															1
			F															1
	SK07	F																1
	SK18	F	10	1307.2														10
	SK19	F	5	350.6														5
	SK20	F																1
	SK22	C																1
		F	4	38.7														4
	SK25	F	1	12.3														1
	SK26	F	13	202.6														13
	SK32	F																3
	SK41	F	1	31.2			2											1
	TK	UK																1
		C																1
		F																1
	TT	F																2
	TT1	F	2	180.8														2
	計			36	1978.4		2			1								19
II	SD02	F	2	128.1														2
	SK012	C							1									1
		F	8	1653.0														8
	SK013	F	4	449.0														4
	SK024	F	1	1090.7														1
	SK027	F	1	267.3														1
	SK032	F								1								1
	SK041	F	6	662.1														6
	SK042	F	1	220.8														1
	SK043	F	1	201.2														1
	SK047	F	1	118.8														1
	SK049	F																1
	SK050	F	3	760.5														3
	SK053	F																1
	SK054	F	1	14.6														1
	SK055	F	22	2057.5														22
	SK058	C																1
		F	2	315.1														3
	SK061	C																1
		F																1
	SK064	C																1
		F	15	2930.8														15
	SK067	C																2
	SK070	F	24	1993.0														24
	SK072	F	1	7.2														1
	SK078	F	48	8211.1														48
	SK079	F	79	2479.3														79
	SK085	C																1
	SK088	C																1
	SK089	F	2	15.8														2
	SK091	F	2	441.0														2
	SK097	F	7	1618.4														7
III	SD01	C																1
		F	22	7017.3														22
	SK02	F	1	293.5														1
	SK05	F	12	932.4														12
	SK08	F	2	476.8														2
	SK11	F	1	372.8														1
	SK12	C																1
	SK14	F	6	454.9														6
	SK19	F	1	366.9														1
	SK22	C																1
		F	5	2343.0														5
	SK25	F	13	6666.5														13
	SK27	F	1	1537.0														1
	SK28	F	6	1056.7														6
	SK29	F	3	1168.4														3
	SK30	F	17	909.4														17
	SK31	F	22	6368.7														22
	SK34	F	17	3725.9														17
	SK35	F																1
	SK36	F	28	6451.4														28
	SK37	F	5	1156.3														5
	SK38	C																1
	SK40	F	1	784.4														1
	SK41	F	5	1556.6														5
	SK46	F																1
	SP4	F	1	428.2														1
	TX	C																2
		F	15	3676.7														15
	計			183	49649.7		4											4
	総計			1021	159646.0		1		14									25

*凡例/遺構番号: SC=礎石, SD=溝状遺構, SK=土坑, SP=ピット, SQ=遺物集中国所, TX=検出面, UK=不明
種類号: C=銅, F=鉄



第Ⅰ検出面全景
(東から)



第Ⅱ検出面全景
(東から)



第Ⅲ検出面全景
(東から)



I 検 土41 遺物出土状況



I 検 建1



II 検 調査区東半分



II 検 調査区西半分



II 検 土6



II 検 土7



II 検 土27 木製品出土状況



II 検 土31(右)・土32(左)



Ⅱ検 土44



Ⅱ検 土44 しがらみ



Ⅱ検 土55 金属滓出土状況



Ⅱ検 土70 金属滓・木製品出土状況



Ⅱ検 土78 金属滓出土状況



Ⅱ検 土79 遺物出土状況



Ⅱ検 鞆羽口・金属滓出土状況



Ⅱ検 土97



29



32



42



70



88



94



103



112



115



128



133



136



148 (外側)



148 (内側)



149



150



158



159



176



180



222



236



237



255



257



262



264



273



280



291



314



339



356



465 · 484



4



11



12



15



22



110

長野県松本市 松本城下町跡 小池町 第1次発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし まつもとじょうかまちあと こいけまち だいいちじはつくつちようさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 松本城下町跡 小池町 第1次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	№190							
編著者名	竹内増長、内堀 園、岡崎武祥							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13 TEL 0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710)							
発行年月日	2007(平成19)年3月23日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
松本城下町跡 小池町	長野県松本市 中央3丁目639番1	20202	157	36° 13' 54"	137° 58' 17"	20060213~ 20060414	281.8㎡ (1~Ⅲ検 合計759.1㎡)	民間集合住宅建設に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松本城下町跡 小池町	城館跡 (城下町・町屋)	近世～近代	土坑231 ビット46 溝状遺構8 建物址1 石列1 水道遺構1		土器・陶磁器 土製品 木製品 金属製品 その他(埴埴・金属滓等) 石製品		近世松本城下町の町屋跡の調査である。整地層3面を確認し、第Ⅰ面で埴埴、第Ⅱ面で多量の彌羽口・金属滓が出土したことから、鍛冶関連に従事していた居宅と考えられる。	

松本市文化財調査報告書№190

長野県松本市

松本城下町跡 小池町

—第1次発掘調査報告書—

発行日 平成19年3月23日
 発行者 松本市教育委員会
 〒390-0874
 長野県松本市大手3-8-13
 印刷 藤原印刷株式会社

